幼兒の教育

第五十卷　第二號

日本幼稚園協會

2

幼稚園のあり方と全貌の解明書

幼稚園制度研究會編

加除式 **幼稚園關係法令通達便覽**

A 5 判　270頁

全國保育連合會推奨

文部省推奨

幼稚園一覽

A 5 判　160頁

○ 幼稚園教員養成所一覽
○ 幼稚園のつくり方
○ 幼稚園に備えなければならないもの
○ 幼稚園で認可や届け出を必要とする事項とその届け方

上製美麗二册箱入　定價 500圓　〒35圓

☆推薦のことば

文部省初等中等教育局初等教育課長　大島文義

○幼兒教育の重要性が認められて、幼稚園關係者各位には、園の運營や教員の身分資格等についての法令に關する深い知識と理解とが、缺くことの出來ないものとなつたのです。このときに本書が刊行されたことは、まことに時宜に適したものであり、保育界に稗益することがまことに大きいと思われ、本書の刊行を賛同いたし、その活用を期待す。

發行所　東京都千代田區神田神保町2の4　株式會社 **フレーベル館**　振替口座 東京 19640

フレーベル式

恩物

（第1恩物より第13恩物まで）

七箱入一組　定價2450圓　〒100圓

フレーベル曰く、『兒童は幼年期となれば、其內部的本質を、色々の目的と手段とに隨つて、多方面に分割して働かせ、自分の努力によつて其本質を永久的に外部に表現せんと力むるものであります。而して兒童は又外界に由つて內界を現わし、かくて內外兩界を統一せしめんとするものであります。人の教育は此の時期から始まる』と（フレーベル『人の教育』より）。恩物は兒童の內界を外界に發表する唯一の武器であつて、而も論理的方法であります。卽ち恩物に於ては立體より始まつて面、線、點に移り製作方面に於ては、逆に點に始まつて順次線、面、立體に移つています。兒童はかく各ダイメンションを有する物體によつて繁簡自由に自己を外界に表わし、かくて內外兩界を統合統一するものであります。

第一恩物　六球	第六恩物　積木	第十一恩物　環
第二恩物　三體	第七恩物　色板	第十二恩物　紐
第三恩物　積木	第八恩物　連板	第十三恩物　粒
第四恩物　積木	第九恩物　組板	
第五恩物　積木	第十恩物　箸	

發行所　東京都千代田區神田神保町2の4　**フレーベル館保育用品株式會社**　振替口座 東京 38171

第五十卷　幼兒の教育　第二號

目次

第二次アメリカ教育使節團の報告中
就學前教育に關する提言に就て……倉橋惣三……(2)
幼稚園の現況について……玉越三朗……(8)
よき幼稚園(二)……及川ふみ……(13)
アメリカ童話から(八)……松原至大……(16)
ぼうけん・ぴこちゃんのおはなし……美知子……(20)
幼兒の社會性の發達の調査記錄……渡邊俊枝……(22)
子供讃歌(一五)……倉橋惣三……(31)
(講話)幼兒の健康保育(八)……平井信義……(36)

記錄……(42)
第六回幼稚園小学校研究集會(中國地區)
第二回山靜保育研究會
教育指導者講習會(IFEL)
第二次幼稚園教育終了
東京都公立幼稚園長會発足
第一回全國國公立幼稚園長會協議會記錄補遺
會から……(48)

(表紙……脇田和)

第二次アメリカ教育使節團の報告中
就學前教育に關する提言に就て
――その實現を期待しつゝ――

倉橋惣三

昨年來日の第二次アメリカ教育使節團の報告中、就學前教育に關する提言については取敢えず、本誌前々號に紹介した通りであるが、その適切なものであつたことは勿論、多くの重要事項の解決の基をおくものとして、極めて要を捉らえていることを思う。殊に、五年前の第一次使節團の提言につぐものとして、發展の段階性と實現性とが示されている點は、その着實性を感ぜしめる。改革の理想は限りない。その希望からすれば、この提言には、幾多の加えられたいものがある。必ずしも十二分の滿足としない人々も少くあるまい。現に、保育界各方面からの要望が、ことごとく盛られているとはいえない。併し、われらは、これで萬全の改善が示されていることを求める前に、この提言は、その萬全の實現への、最も合理的にして、しかも最も具體的な基礎をおくものとして、使節團の考慮深き賢明に敬意を表したい。理想の精華を示されているよりも、斯くの如くして、その精華に至る正しい途を示されている事實であり、又、たゞに一個の段階であるばかりでなく、それ自身甚だ望ましい實際であることが、充分認められもするのである。以下少しく解說を試みよう。

一

『保育學校および幼稚園は、小學校の一部として設置すべきである』

この提言は三つの重要なる意味を含む。

一、幼稚園（以下簡略に幼稚園とのみ記す）と小學校との關係連絡の當然と必須とを示している。

二、小學校との結合によつて、幼稚園義務制えの移行の一段階となる。

三、少くも公立幼稚園の增設を速にする。

（一）幼稚園と小學校との密接な連繼關係は、兒童の發達に沿うてゆく教育として、極めて當然のことであるが、その連繼が、必ずしも完全でないのはもとより、その考慮と研究に

おいても、甚だ周到でない。この點に就て一部の教育者は、幼稚園は幼稚園、小學校は小學校との、形式的區別概念にしばられて、その連繼を求めず、その區別の主張を強く說く者さえある。これ或は、舊來の幼稚園が、舊來の小學校の教育型に倣い過ぎて、幼兒期の教育にふさわしくない弊があつたのに對する反動でもあつた。しかし、その小學校の教育型なるものが、新らしく變つた今日において、その間の連繼が、幼稚園に幼兒期としての不自然を强いるものでなくなつた今日、この區別觀は除かるべきであり、幼稚園、低學年の連繼は、双方の正しい教育の間に求められるものである。しかも、そういう原理的な區別論とは別に、幼稚園と低學年とが、小學校の同じ部分（使節園も小學校の部分 Part と言つている）として始めから考えられる時、兩方からの影響と協働とは、最も圓滑になる譯である。幼稚園が單獨に設置せられることも、素より妨げないが、小學校の一部分として設置せられることを、今日の小學校附設幼稚園以上に一般化せられるよう提言されてあるのもそのためである。アメリカにおいて、以前から唱導せられている、所謂 Kindergarten—Primary grabe 論は、幼稚園と低學年二年とだけの學校に考えると共に、必ずしもそうでなくとも、六ケ年の小學校の下にあつて、特に低學年に結びついた幼稚園と考えられてもいいものであろう。近來就學前ということを、Pre-School 即ち學校前というよりは、Pre-elementary といつて、小學校の初めとする傾向も、こゝらの意味に出るものである。

更に、幼稚園が小學校の一部として設置せられた時の効果は、小學校の先生に幼稚園を理解せしめ、兒童の自然の發達において低學年を出發させる上に、最も役に立つであろう。プレ・エレメンタリーの教育を知らずして、エレメンタリーの教育を屢々〇から出發させたり、小學校教育の特定の出發としたりさせる從來の誤謬は、兒童成長論の上からだけでなく、教師の經驗の上から正しくせられるであろう。

すなわち、この提言は、幼稚園と小學校とを別々の教育とせず、自然の一貫の教育とするために、教育實質上、兒童に、そして先生にも、極めて有効な意義をもつことである。幼稚園と低學年が一貫のカリキュラムに立つに至つて最理想的になるのである。

（二）幼稚園の義務制は、幼稚園教育のための要望であるばかりでなく、學校教育そのものゝ完全性のための必須といつてよかろう。6・3・3制は6・3・の義務制の後の3を、6・3につけた體系としている言葉である。その、後の3が望ましいことは勿論である。これとならべて、6・3の下のXも亦、6・3を眞に完うするものとして必須である。そのXは何年であるかは、今日の幼稚園としては3となつているが、教育刷新審議會が、幼稚園を學校體系に入れることを決議した時に希望したXは1である。低學年一年の前の1である。幼稚園義務制の急速な實現に伴う、現在の幾多の困難に對してこのXを幼稚園全年限の3にすることは、急速の實現を容易に可能ならしめるものではないであろうことを認めた

上で、せめてその3の中の終りの1だけを、義務制にしたいという、いわば實現を考慮しての差控えであるともいえようしかも、この1は、その年齢期のためにも、また、6の始めにつながるためにも、是非希望したいのである。

しかも、その1の實現が實は容易ならずと考えられている今日の對策として、先づ、幼稚園が小學校の一部として設置せられるとき、その年限は當然3とするのが本體であるけれども、その中の終りの1を義務制とすることは、實現への段階として、可能性の多い用意といゝ得るであろう。全幼兒の義務制が望ましい。しかし、そこへ進む前に、低學年の前の1を、準義務制とすることも出來る。尤も幼稚園に於る終りの1を義務制にすることは、所謂小學校就學期を一年下に延長(?)することと、同じ結果になり、その方面からも問題とせられるであろう。しかも、此の問題の中心である教育可能年齢(?)の研究は、小學校の一部として設置せられた幼稚園において最もよく研究試策せられるであろう。教育は年限ではなく、兒童の生長の實質において考えられるべきであることはいうまでもなく、その生長は連續の中においてこそ、正しく檢討せられ得ることである。

その幼稚園で保育されたもので、その小學校一年級のすべてをつくることは、最も望ましい制度的又教育的連繼であるが、幼稚園が義務制になるまでは、それを完全に望むことはむづかしいでもあろう。しかし、折角幼稚園で保育せられたものが、それにふさわしい受入れ方をされないことは、今日の小學校附設幼稚園の場合において、いつも問題にせられることである。或る場合には、その小學校がその幼稚園の保育價値を少しも認識しないといつたことも言われたりする。これでは、幼稚園が小學校の眞の部分になり得ない。そこで、少くもその小學校が幼稚園保育終了幼兒の受入れ方を正しくすると共に、それが正しく行われ易いような組のつくり方を考えなくてはなるまい。これは決して、その幼稚園とその小學校との間の問題に止まらないが、最も考慮せられなくてはならぬことゝして、又、最もよく實現せられ得ることゝしてその小學校のその幼稚園が必ず範例となるのでなくてはなるまい。それには幾多の要項が擧げられるであろうけれど、教師の受持つべき、或は交錯組織が是非必要になるであろう。そして、そういう經驗の多くなるにつれて、小學校の先生の幼稚園必要論が加わつてゆくであろう。幼稚園の先生の幼稚園必要論ばかりでなく小學校の先生の幼稚園必要論こそ、幼稚園を義務制にする大きな、教育的實質である。われらは、小學校の方から幼稚園義務制論の立上る日を待つている。全兒童教育の前の全幼兒教育として。而してその爲には、幼稚園が小學校の部分として設置せられることが、最効果的だと信ずるのである。就學後の全兒童教育の前段をつくる就學前の全幼兒教育として。全兒童教育が義務制小學校である如く全幼兒教育が義務制幼稚園の實質的目標なのであるから。

(三) 第一、第二の意義は、假りに兎も角として此提言が幼稚園數、殊に公立幼稚園數の增加を、直接意味することであ

ろうことは、極めて明かなることである。全國の公立小學校にたゞ二組（少くとも）づゝの幼稚園が、その小學校の部分として設置せられるだけでも、我國の幼兒に、幼稚園教育が如何にゆき亘ることであろう。

われらは、多くの希望目標をもち、また屢々焦せる心に追われずにもいられない。しかし、此の提言が實施に移されること位は、今日只今の要望としても、決して過ぎたる希いではあるまい。要望の第一着手といつていゝものであろう。

二

『個人的成長發達の研究をもつと強調する必要がある。附屬學校及び協力學校は子供の成長發達を直接觀察するために使用すべきである。保育學校および幼稚園は附屬學校と結びついて存置せられ、子供の觀察と幼稚園の教師養成のための學生の教育參加及び教育實習のために使用すべきである。保育學校、幼稚園の教育に從事したいと思う教師は、同時にまた小學校を教えることができるように養成せらるべきである』

（一）この提言は先づ、教師養成のカリキュラムとして。根本は教師養成に、子供の個人的成長の研究の最も重要なことを說き、（我國の現狀にその缺陷あることを言つているものである）そのために、附屬學校や協力學校（附屬にはなつていない公私の學校で研究上附屬的關係をもつもの）が、たゞそれ自身として模範學校であるというだけでなく、教師になるために養成されている學生が、そこで兒童觀察を充分になし得るよう、施設又運營の上に一ぱいに使用せられなければならないことを強調し、すなわち、教育方法の練習所というよりは兒童研究所としての目的を具えなくてはならないことを強調しているのである。若し附屬施設が、教育方法の實地練習というだけならば、小學校の教師となるものには小學校、中學校の教師となるものには中學校が附屬してあればいゝともいえるかも知れない。我國從來の考え方などがそうであるのである。しかも、兒童の成長發達の理解のための直接觀察のためという、方法練習よりも根本的な教育原理の研究のためには、中學校の教師のためにも、小學校兒童の、小學校の教師のためにも、幼稚園幼兒の直接觀察が缺くべからざることになる。つまり、附屬學校の目的が、それの學校の教育方法の稽古に止まるならば、附屬幼稚園は、幼稚園の先生になろうとするものゝためにだけ必要だということになるでもあろうが、すべての教師養成のための必要として、苟も教師養成の大學には、そこが幼稚園教師の養成を主目的としていると否とに拘わらず、必ず幼稚園が附屬されなくてはならぬということになるのである。

ところで、我國の實際はどうであろうか。これがまた何んという甚しい缺陷というべきか。道府縣各一大學が教師養成に當つているとして計算して、北海道、福島縣、茨城縣、神奈川縣、福井縣、長野縣、岐阜縣、滋賀縣、和歌山縣、鳥取縣、山口縣、高知縣、福岡縣、佐賀縣、宮崎縣の一道十四縣

が附屬幼稚園なしで、教師養成をしているのである。これに對し、この提言は、教師養成の根本原則上から、すべての教師養成大學に附屬幼稚園の必要を言つているのである。

（二）その附屬幼稚園は、すべての教師養成のために兒童研究上使用せられなければならないが、幼稚園の教師養成のためには、更に學生の教育參加と教育實習のために使用せられる。これは餘りにも自明なことで、若し、附屬幼稚園をもたない幼稚園教師養成機關があるとしたら、プールをもたない、水泳選手養成所のようなものである。水泳は、或はプールでなくても川でも海でも練習できるかもしれないが、幼稚園教育は、幼稚園という一個の施設教育であつて、家庭や社會での幼兒教育と、異りはしないが同一ではないのである。さて、附屬幼稚園をもたない幼稚園教師養成所はあり得ないとして、その附屬幼稚園の使用については、必ずしも充分に考究實施せられているといえないかも知れない、この提言は直接にそのこまかい實際にまで觸れてはいないが、幼稚園教師養成のための附屬幼稚園という以上は、その使用――すなわち、學生の教育參加、教育實習の實際――を、最も主要なるカリキュラムとして研究されなくてはならぬのである。

（三）次に提言してある『保育學校、幼稚園の教育に從事したいと思う教師は、同時にまた小學校を教えることができるように養成せらるべきである』という點は、二つの重要な意味に解せられると思う。

（い）一つは幼稚園教師の本質についてゞある。幼稚園教育は幼稚園教育に相違ないし、必ずしも狹い意味での小學校準備教育ではないが、その教育の實質が當然小學校につながること、つなげることの當然はいうまでもない。これを教師の方にしてみれば、幼稚園教師は、小學校教育、殊に低學年教育に十全の理解をもたなくてはならないし、それは、自ら小學校低學年教師になれることでなければならない。このことについては、わが國でも以前からいわれている。所謂幼稚園と低學年とのもちあがりである。この提言にも、もちあがりの實行をすゝめていることもあるかも知れない。しかし、大切なのは、もちあがるかどうかよりも、小學校を教えることのできる素養と能力をもつことそのことである。もちあがりの主張は、幼兒のために、それがいゝことだといわれることが多い。確にそれを一つの大きな意義をもつであろう。しかしこゝに說かれている重點は、低學年になつた幼兒のためにということよりは、低學年に進むべき幼兒のためにいうことであり、それは、幼稚園教師としての必要のためが先づ强調されているのである。

（ろ）而して、此の養成方針を實現するためには、幼稚園教師養成所は、完全には、幼兒が上に連繼する附屬小學校をもつところでなければならぬということがいえるであろう。單獨なる幼稚園教師養成機關でも、『小學校を教えることができる』ように養成する工夫は不可能ではないかも知れないし、できるだけの範圍で、その工夫を講ずべきであるが、附屬小學校のあるところでこそ、此の點が容易に又正しく實現せ

られ得るであろう。提言が『保育學校及び幼稚園は附屬小學校と給びついて存置せられ、 (should be maintained in connection with the attached elementary schools)といつているところにも、この意義が含まれるのである。

この點は、幼稚園教員資格と免許狀の問題に直に關係し來るが、その實際は種々の考慮の上において行われるべきとして、こゝでは、幼稚園教師は必ず小學校教師の資格また免許狀をもたなければならぬものとまで解釋する必要はあるまい。そういう教師が望ましいし、一人でも多くそういう教師を養成すべきであるということに止めておいていゝでもあろう。と同時にそういう資格をもつ幼稚園教師の資格上の優遇も、この原則からは當然かも知れない。しかし、この點だけが、よき幼稚園教師の全資格でもないから、他の多くの優遇點の一つとして取りあげられるべきであろう。

× × ×

以上は、第二次アメリカ教育使節團の幼稚園に關する提言の解說であるが、こう讀會し來るとき、此の提言が、今日のわが國の幼稚園のために必須な事項であると共に、わが國の幼稚園教育の正しい將來のための、基礎段階となるものであることが理解されるであろう。

しかも、われらは理解するに止まつてはならぬ。これを實行實現しなくてはならぬ。わざ〳〵海を越え來つて、熱心なる忠告を與えた使節團の努力と、その使節團を送つた心、迎えた心は決して單なる研究のためではなくして、實行のためである。而して、これらの提言は、或はわれらが使節團に要望したもののすべてゝはなかつたかも知れない。と同時に、使節團の言わんとした——心づいた——すべてゝはなかつたかも知れない。しかし、わが國幼稚園教育の改善進歩の理想の中で、急務であると共に、實行可能性を考えての提言だといえる。このことは、とにかく先づ實行しなくてはならぬのである。この位のことは、必ず實現し得られる筈のことである。勿論、それにも實現の序次は免れぬであろう。しかも、これだけのことでも速に實行せられなくては、わが國幼稚園の進展をめざしているものともいえず、この基礎段階なしには、進展に着手できないといつていゝことであろう。

進展は理想を目指す。しかし、理想は實行において段階をたどる。段階をたどることは、ゆう〳〵のろ〳〵の漫歩ではない、その段階の位置と範圍との限定である。限定は計畫と完成とである。

昭和二十六年において、保育界は多くの進展を希つているその前途も廣いのである。しかも、われらは、此の提言の內容を本年の段階としたい。それも使節團の提言なるが故にと限らず、その內容の實質的重要さにおいて、また、或は、われら豫ての希望として、この機會に之れを本年の實現段階としたいと思う。(これに伴うことだけでなく、廣き、財政方面についても、多くの急務があるが、更めて考えると共に同時にその實現を期さなければならない。)

幼稚園の現況ついて

玉越三朗

このたび昭和二十五年度　昭和二十五年四月三十日現在）の全國幼稚園に關する統計が整理されたので、その結果をお知らせする事とする。多少なりとも保育關係者の參考ともなれば幸いである。

園數　總園數は二、一〇〇園であるから、終戰前に最も普及した昭和十七年度の二、〇八五園（文部省年報）より一五園も上廻ることとなつて、施設數からは戰前に戻つたということができる。その內譯を設置者別にみると、國立三三園、公立八四一園、私立一、二二六園であつて、これを昭和十七年度に比較すると大分變つてきている。すなわち昭和十七年度には國公立對私立の割合が大體三對七であつたのが、本年度は大體四對六となつている。この結果は、市町村當局が戰前よりも幼兒敎育の重要性を認識しはじめたことを物語つている。

地方別にみると一府縣平均四六園（國立一公立一八、私立二七）で、最も普及しているのは東京都の三〇七園（國立二、公立四三、私立二六二）兵庫縣の二一五園（國立一、公立一四八、私立六六）大阪府の一五〇園（國立二、公立六九、私立七九）德島縣の一一五園（國立一、公立一一一、私立三）等で、最も普及のおくれている府縣は高知縣の三園（私立のみ）山形縣の七園（國立一、私立六）富山縣の八園（國立一、公立二、私立五）鳥取縣の九園（公立二、私立七）等である。

一年間の增加園數をみると三二四園で、前年度の二五七園よりもさらに六七園も增加して、增加實數の最高を示している。增加園數の內譯をみると、國立一園、公立六三園、私立二六〇園で、公立は前年（七七園增）より減少しているが、國立私立は增加しており特に私立は注目すべき增加（前年度は一八一園）を示している。

府縣別にみると、東京都の八五園　公立二私立八三）靜岡縣の三六園（公立六、私立三〇）大阪府の三〇園（公立一二、私立一八）廣島縣の二五園（公立八、私立一七）埼玉縣の二三園（私立のみ）神奈川縣の二〇園（公立二、私立一八）等が增加府縣の主なもので逆に減少した府縣には、愛媛縣の五園（公立三、私立二）他岡山縣岐阜縣岩手縣秋田縣群馬縣等がある。

○

敎員數　敎員總數は九、四一一人で、本年度が最高である。その內譯を設置別にみると國立一三二人、公立三、八〇〇人、私立五、四七九人で、職名別にみると、園長（主事を含む）二、〇六七人、敎諭三、八九三人助敎

諭三、一〇四人、養護教諭一一二人、養護助教諭四二人、講師一〇二人、その他の教員(PTA等で費用を出している職員)九一人で、園長は全體の二二%教諭は四一%助教諭は三三%となつている、なお教諭助教諭の比率は國立は九對一、公立は五對五、私立は六對四で公立が最も悪い。

増加實數は九九八名で、前年度の一、三九一名には及ばないが、助教諭の増加が前年度よりも減少していることは喜ばしい。増加の内譯をみると、國立三名減、公立二〇八名増私立七九三名増である。そのうち助教諭についてみると、公立は前年度の三一四名に對して、本年度は九四名と極端に減少しているが私立は三七二名に對して、四〇六名とかえつて増加しているのは今後考えなければならない。

○

一園平均の教員數は、四・四八人で教諭助教諭のみから考えると三・三三人で、前年度の四・七一人と三・四〇人に比較して何れも少くなつている。さらに一組當りの數員數(教諭助教諭のみ)についてみると、一・〇九人で前年度と變りはないが、國立(前年一・〇七人本年一・〇三人)公立(前年一・一〇人本年一・〇五人)はともに前年より悪るく私立(前年一・一〇人本年一・一五人)のみがよくなつている。しかしこれを後述の一組當りの幼兒數と考え合せると、一組當りの幼兒數が減少してきているから教育上からは充實してきたといえる。いま一教員(教諭助教諭のみ)當り幼兒數を考えてみると、前年度は三七・六三人であつたのが、本年度は三二・〇五人となつて、約六人の減少を示しているから、この點からも實質的には充實してきたことがわかる。(一組の幼兒數も參照されるとよい)

○

幼兒數 幼兒總數は二二四、二五一人で、前年度より四・五五六人減少している。これは國立三三人、公立五、七〇一人の減にもとずくものである。(私立はかえつて一、一七八人増加している)この國立公立の減少の原因は幼兒教育の普及上今後充分研究する必要がある。

設置別内譯をみると、國立二、九五二人公立一〇七、三二五人、私立一一三、九七四人で、男女別は前年度と同じく男兒がやゝ女兒より多くなつている。

一園平均幼兒數は一〇六・七八人で、前年度の一二八・五〇人より減少している。設置別にみると、國立八九・三三人、公立一二七・六二人、私立九二・九六人で前年度の九三・二八人、一四五・二八人、一一六・四〇人より何れも減少している。

一組當りの幼兒數をみると、三五・〇三人で前年度の四一・四一人より六・三八人も減少している。これを設置別にみると、國立は三二・四四人、公立は三九・五三人、私立は二八・九二人となつて、前年度の一組平均幼兒數よりも(國立三四・七一、公立四五・五四人、私立三六・三八人)國公私立ともに減少して、幼稚園經營も正常に戻りつゝあると考えられる。

○

さらに幼兒を年令別にみると、滿五歳から小學校入學までの幼兒が一五九、九五二人で最も多く全體の七割强を占め、次が滿四歳から滿五歳まで四五、七〇八人でその二割强を占め、殘りの一八、五九一人の約一割が滿三歳から滿四歳までである。これを前年度に比較すると滿五歳以上は多少減少して、滿三歳から滿四歳までと滿四歳から滿五歳までの幼兒が増加してきている。

幼稚園に關する資料

1、昭和二五年度（昭和二五年四月三十日）×印は外國人

計	私立	公立	國立	區分	
2,100	1,226	841	33	園數	
9,411	5,479	3,800	132	總計	教員數
×17 2,067	×17 1,202	833	32	園長	
×6 3,893	×6 1,368	1,434	91	教諭	
3,104	1,688	1,413	3	助教諭	
×1 112	×1 36	73	3	養護教諭	
42	32	10	—	養護助教諭	
×1 102	×1 83	19	—	講師	
91	70	18	3	その他の教員	
6,401	3,595	2,715	91	組數	
×189 112,927	×66 57,265	×123 54,156	1,506	男兒	幼兒數
×151 111,324	×55 56,709	×96 53,169	1,446	女兒	
×340 224,251	×121 113,974	×219 107,325	2,952	計	
3.05	2.93	3.23	2.76	1幼稚園當り組數	
106,78	92,96	127,62	89.33	1幼稚園當り幼兒數	
3.33	3.31	3.39	2.8	1幼稚園當り教員（教諭、助教諭）數	
32.05	28.12	37.69	31.40	幼兒數　教員（教諭、助教諭）1人當り	
35.03	28.92	39.53	32.44	1組當り幼兒數	
1.09	1.15	1.05	1.03	教員數（教諭、助教諭）1組當り	

（四七頁より）

然るに師範學校が附屬幼稚園を持たないものも相當數に及び、又現在設置されているものも殆んど規模が著しく貧弱で、現在の學級數及び教員定數では到底その使命を果し得ない狀態であります。

就きましては當局におかれ、上述の現狀を御推察の上、國立幼稚園の整備充實につき格別の御配慮を賜わり、幼稚園教員の養成に或いは地方幼稚園教育の研究と指導に、その使命を達成出來ますよう茲に全國國立幼稚園長會の議決に基き請願する次第であります。

3 昭和二五年度　年令別幼兒數

割合	計	私立	公立	國立		
	×12 9,277	×5 6,735	×7 2,284	258	男兒	滿三歳から滿四歳まで
	×7 9,314	×3 6,848	×4 2,240	226	女兒	
8.29%	×19 18,591	×8 13,583	×11 4,524	484	計	
	×38 23,242	×13 16,164	×25 6,575	503	男兒	滿四歳から滿五歳まで
	×36 22,466	×14 15,738	×22 6,242	486	女兒	
20.38%	×74 45,708	×27 31,902	×47 12,817	989	計	
	×139 80,408	×48 34,366	×91 45,297	745	男兒	滿五歳以上小學校入學まで
	×108 79,544	×38 34,123	×70 44,687	734	女兒	
71.33%	×247 159,952	×86 68,489	×161 89,984	1,479	計	
	×189 112,927	×66 57,265	×123 54,156	1,506	男兒	計
	×151 111,324	×55 56,709	×96 53,169	1,446	女兒	
100%	×340 224,251	×121 113,974	×219 107,325	2,952	計	

2 昭和二五年度　教員男女別內譯

計	私立	公立	國立	區分	
1,662	915	687	30	男	總計
7,749	4,534	3,113	102	女	
9,411	5,479	3,800	132	計	
1,504	824	653	30	男	園長
560	378	180	2	女	
2,067	1,202	833	32	計	
85	61	21	—	男	教諭
3,811	2,307	1,413	91	女	
3,893	2,368	1,434	91	計	
10	9	1	—	男	助教諭
3,094	1,679	1,412	3	女	
3,094	1,688	1,413	3	計	
112	36	73	3	女	養護教諭
42	32	10	—	女	養護助教諭
46	38	8	—	男	講師
56	45	11	—	女	
102	83	19	—	計	
17	13	4	—	男	その他の教員
74	57	14	3	女	
91	70	18	3	計	

4、昭和二四年度と昭和二五年度との比較（（）は減）

24年度の増減	計	私立	公立	國立	區分	
257	324	260	63	1	園數	
1,391	998	793	208	—3	總計	教員數
244	299	233	63	3	園長	
435	422	354	62	6	教諭	
688	496	406	94	—4	助教諭	
34	34	7	27	0	養護教諭	
	14	17	—3	0	養護助教諭	
—12	17	24	—3	—4	講師	
	—282	—246	—32	—4	その他の教員	
550	875	594	276	5	組數	
14,489	—1,950	1,111	—3,078	17	男兒	幼兒數
15,160	—2,606	67	—2,623	—50	女兒	
29,649	—4,556	1,178	—5,701	—33	計	
16.81%	15.42%	21.20%	7.49%	3.03%	幼稚園數增加率	
19.81%	10.60%	14.47%	5.47%	—2.27%	教員總數增加率	
22.66%	13.41%	18.66%	5.48%	2.12%	教諭・助教諭增加率	
14.89※	—2.03%	10.33%	—5.31%	—1.12%	幼兒數增加率	

（一五頁より）

占領されて默つている子供も亦よくないことである事を知せなくてはならない。

歸宅の前の用意をしましよう。

お歸の時の豫告を受けたら、遊びをやめて、後片付けが出來れば、手を洗い、用便をすませ、お辨當、外套などの持ち物の支度、よごれたエプロンのとりはずしなど、歸宅への途中に對して整容に氣をつけること、歸りの挨拶など快よく「さよなら」をとりかわして歸ることなど毎日の生活へのよき習慣について考へてみたのである。

朝の挨拶・廊下や保育室では出來るだけ靜かに・おもちやの後片付・お當番の責任・自分の順番をまつ・共同のおもちやを獨占しないこと・など以上數種の幼稚園生活に必要な、又あつてほしい、よき習慣をあげてみたのであるが、これで勿論充分というわけでもないから、それぞれの幼稚園でその事情によつて、必要なのぞましいよい習慣を考へて、實行されることをのぞむのである。最初に子供たちのよき習慣を考へる前に、これを受ける子供たちの心もちの云うことを考へなくてはならないことを繰りかへして思う。即ち家庭からはなれて、最初の集團生活に入つた子供達の心境に、このよき習慣がながれこめるだけの用意の出來ることである。幼稚園は樂しい場所である、先生は大すきなよい人である、お友達は皆仲よしである、毎日の幼稚園生活が樂しい、うれしいといふ安定感をもつていてこそ、よい習慣がのぞめるのであるよい幼稚園は、先ず子供の爲に健康を思い、次によい生活のための習慣を考へるべきではなかろうか。

よき幼稚園（二）

お茶の水女子大學附屬幼稚園主事　及川ふみ

幼稚園の生活が、子供の身體的發育の爲にどんなに役立たなければならないか、又それがどんなに大切なことであるか、それならば幼稚園の環境は具體的にどんなであつてほしいか、健康のために、どんなよい習慣をつけたいかについて今まで考えて見た。

これについて今までのべた一つ一つの事柄は、何一つとして目あたらしいものはなかつたのではあるが、毎日の幼稚園の生活の中で、この健康の爲のよき習慣えの途がどんなに進められているか、はたまた先生たちがこのよき習慣をつける事に、毎日の保育の中に重要なポイントとしているかという事についてであつた。

次に子供の幼稚園生活のきまりをよく守る躾について話してみたい。

子供によい習慣をつけ、躾をする前に子供が、幼稚園や、先生、お友達に對して親しみが出來た上でないと、ほんとの躾は出來ないと思われる。即ち幼稚園の生活に子供が、安定感をもつてこそ、幼稚園の生活に對して心よくそのきまりが守られてゆくものである。幼稚園は面白いところである、樂しい場所であると子供が思い、先生は自分をよく可愛がつて下さる、すきな人であると、子供がしたしみ、お友達は皆よく自分と遊んでくれる仲よしであると云う心持ち、即ち安定感が先ず第一の必要な狀態であることである。入園當初先ず情緒的生活において子供の安定感ということが問題であらねばならない。

さて安定感が出來たとして、幼稚園のきまりについて、

朝の挨拶をしましよう

朝登園の直後、先生に對して、きげんのよい顏で、「お早う御座います」の言葉と同時に禮をする。

小人數の組であれば、出來ればお友達にも、挨拶してもよいが大勢一組の場合が多いから、お友達を代表して先生が挨拶を受けることにする。

これは年少の子供でも、出來ることであるからなるべく早くから始めたい。こんな簡單なことでも、始めのきつかけを失うと、朝あつてもぢろぢろ顏を見ていて言葉もかけず、禮

もしないでいる子供もある。こんな時には先生は、きげんよく「お早う」とこちらから言葉をかけることを忘れてはならないと思う。

廊下や、保育室では出來るだけ靜かに歩きましよう。

廊下や、保育室で靜かに歩けないのは日本の子供の缺點の一つと思われる。二度アメリカン スクールえ見學にいつていつも感じることは、子供たちが保育室や廊下（卽ち屋內）では實に靜かに動作していることである。走らないで、靴音をたてない樣に、靜かに歩いていることである。したがつてお互の話聲も靜かで小さくてもよくききとれる環境にある。この點日本の大抵の幼稚園は、室內の樣子が少し賑かすぎ、さわがしすぎる樣である。雨の日や、寒い風の日などやむを得ず屋內で、外遊びと同樣のことをして遊ぶ場合の外はこのよき習慣をつけたい。

廊下を驅けていてお友達とぶつつかつたり、ドアにつきあたつたり、などして、けがなどすることもあるし、靜かにお話を聞いたり、紙芝居を見ているときに、廊下の音がやかましくて、その聲がよくきこえないでこまるなどを子供たちと話し合つて、どうして廊下やお部屋の中では靜かに歩かなくてはならないかと云うことを考えさせたい。

集團生活には自分一人の都合がよくても、お友達が迷惑することはやめなければならない。廊下をどたばた驅け出して大きな靴音をたてては他のお友達がこまること、ぶつつかつては、お友達に危險な目にあわせることなどをよく話してみると子供たちもこれを了解することと思われる。アメリカンスクールの子供たちの屋內の動作の靜かなことは、家庭生活の躾から來ていることなども考へられるところであるが、よい習慣をつけたい。

おもちやなど使つたものの後かたづけをよくしましよう。

これは廣い意味でのおもちやと云うことで、おままごと道具、乘物ごつこの諸道具、マリや、縄とびの紐、砂場のおもちやから、所謂保育用具の帳面、クレオン、鐵、製作の材料、繪本、積木の類、あらゆる子供たちの遊び道具の後片付けをよくすることである。子供がおもちやの中で大活動をして、その場にいろ〳〵のものがちらかつていることは、いかに活潑に子供等が行動しているかの樣子がよく見えてよいが子供たちの退陣した後、材料や、道具が亂雜にとりのこされていることは、よい環境ではない。仕事や遊びの始めにあたつて後片付のことも子供たちと話しあつて責任をもつて後片付けをさせることである。

そこで先生の方でも、いかに子供が後片付けをするのに、都合よくしておくかと云うことに注意をはらいたいことである。

繪本をたてる本立、積木の箱の置場、おままごと道具の棚保育用具入のための銘銘タンス、など子供たちがそれぞれのおもちやが手輕に後片付が出來る環境を作つておくことについて考えておくことである。子供の手のとどく高さの棚、運べる位の重さ、持てる位の大きさの箱などを先生は常に、よ

き習慣をつける爲のよき環境をととのえておくことである。先生に對して信頼出來る氣持ちは、その約束が、實行出來る樣な狀態におかれていることであるとも思われる。もしも後片付がいつもよく出來ていない場合には、先生はどこにそれの原因があるかを靜かに考えてみる必要がある。無理であると氣がつくとすぐにやり方を考へ直すべきであろう。

お當番の責任をはたしましよう。

お辨當の支度、砂場の後片付、お歸りの當番など毎日の幼稚園の生活の中で、子供たちが交代して、當番にあたることである。子供の頃から適當な責任感はもたせてよいことである。そしてこの當番は實際には子供たちが、喜んでするものである。子供の成長の狀態によつてやり方が考へられるが、お辨當の支度についていつてみると、食事をする部屋の整理整頓、お盆くばり、お湯くばり、皆に「いただきます」の挨拶なども出來ればよいことである。

おもちやや、砂場の後片付なども子供たち個人個人がするのではあるが、誰が持ち出したのか、誰が使つたものかがわからずに、子供の大體後片付のすんだ後にも、とりのこされているおもちやや、運動場の紙屑などの始末する當番、お歸りの時の當番など、一組二種か三種の當番を二人づつ位定めておいてすることである。これについて先生がよく考へて、當番の子供が、當番の責任を充分に果せる樣に先生も、お友達も協力することである。お歸りの時の當番、おもちやや、運動場の後片付などの場合はことに先生や友達の協力が是非必要である。當番の子供もお友達と一緒に歸れる樣に、歸る時間の前、少くとも二三十分はこのための時間をもつべきである。先生は當番でない人達たちをお部屋に入れて、お話をしたり、うたを歌つたりして、當番の子供がおちついてその責任がはたせる樣にまつていることである。後片付がすんで入つて來た友達に暗暗のうちに「ありがとう」とゆう氣持をあらわしたいと思う。何何の當番、だれだれ、何何の當番、だれだれとその翌日の當番の子供の名前を、保育室の黑板に書いて翌日の當番を知らせておくのである。字をよむことにも役立つものと考えられる。

自分の順番をまちましよう。

組のお友達と一緒に行動するときには、この順番をまつことをよく守らないと、混雜して秩序が亂れる。自分だけの都合を考へて、行動することは集團生活には許されないことであつて、子供の時からこの習慣が出來ていないから、大人になつて電車や汽車に乘る時の混亂や、その他いろいろの集團生活に無作法に先を爭うことがおこるのである。

幼稚園のおもちやや、運動具を獨占しないで、皆でかわるがわる使うことにしましよう。

幼稚園のおもちやや、運動具は子供の數だけあるわけでないから、友達が交代で使わなくてはならない。外庭の運動具を年長組の子供たちに占領されてしまつたり、或は大積木を組の勢力家に多く使われすぎたりしないことである。占領する子供も勿論よくないことであるとともに、（二頁へ）

アメリカ童話から 8

うそを言わない兎

松原至大

ヴアレンタイン祭（三世紀頃のローマのえらい坊さんのお祭り日、二月十四日）の朝早くでありました。お母さん兎のコットンテールさんが、いつもの明るい元氣な顔をして、子供のスクーター君とスーちやんを呼びました。

「もう起きる時間ですよ。

牝鶏のレツドさんの聲がしましたよ。

ベツドからとび出して早くお支度。

のろのろしてはいけません。」

スクーター君とスーちやんは、ベツドからとび出して、服をつけました。あんまり急いだので、スクーター君は小さな赤いコートを裏がえしに、スーちやんはかわいいプリューのドレスを横つちよに着ました。二匹はお臺所へとんで行くと、スーちやんはお母さんの大きな白いエプロンをひつぱつて言いました。

「お母さん、どうぞお願いよ。

わたしたちのお服をなおしてちようだい。

お兄ちやんはボタンにとどかないし、

わたしは蝶結びが見つからないの。」

お母さん兎は笑つて、なおして下さいました　それから朝のお食事に、コーンミールのはいつた大きなボールを、二匹に下さいました。食べてしまうと、スクーター君はおいすからとびおりて言いました。

「ぼくたち今週は、外に出なかつたね。
外へ出て、かくれんぼしないかい？」
お母さん兎はうなづいて、二匹にスウエーターを着せて、手袋をつけて下さいました。そして言うのには——
「いつもおいたをしないで、
教えられたとおりにするのですよ。
そうすれば困つたことにもならないし、
お母さんにしかられもしませんよ。
ワシントンさんが子供だつた時は、
決してうそは言いませんでしたよ。
櫻の木を切つた時にも、
『お父さん、ぼくです。』と言いました。
だからいつもほんとのことを言えば、
あなた方もそのようになれますよ。
スクーターちやんとスーちやん、
大きくなつたら、わかりますよ。」
こう言つて兎のお母さんは二匹をしつかり抱きました。それから二匹は遊びに出かけたのでした。間もなく一本の木のところにきました。一番下の大枝の上に、袋ねずみのピーター君が眠つていました。とに角、眠つているように見えました。でも皆さんが知つてるとおり、袋ねずみは眠つたふりをする動物です。この時もスクーター君とスーちやんが木の下にきたのに目ばたき一つしませんでした。スクーター君は小枝をひろつて、ピーター君に投げつけました。
「うん。」と、袋ねずみはうなつて、目を一つあけました。
「失禮だよ、君、
おとなしいものをびつくりさせるのは。」
そしてはげしく足を踏みつけたので、木の皮をはがして、それがスーちやんの小さな鼻の先にあたりました。
「いたい。」と、スーちやんが叫ぶと、二匹は逃げ出しました。

「袋むすみのピーターちやんは、
今日はとんがり御きげんよ。」
どんどんにげて行く中に、スーちやんはとまつて叫びました。
「もう歸つた方がいいわ。
わたしたち、お家から遠くなつてよ。
お母さんがお喜びにならないわ。
わたしたちがこんなところにいては。」
けれど、スクーター君は笑うだけでした。その白い尾が、小道を走つて行くと、上になつたり下になつたりしていました。スーちやんは、少しの間、見さんを見ていました。そして、その後につづいてかけ出しました。ひとりで歸つては、道にまようかもしれないのがこわかつたのでした。とうとう二匹は、お百姓のブラウンさんの納屋にきました。
「納屋の中にはいろうよ。
なにがあるのか見ようよ。
だれかいたら、
逃げてかくれればよいから。」
スーちやんが、スクーター君の言葉を聞いた時は、入口のところにきていて、中をのぞいているのでした。二匹は見まわしました。だが目にはいつたものは、大きなわらの積み重ねばかりでした。わらの間をはねまわるのは、面白かろうと思いました。そこで二匹は、大きなジャンプをして、そのまん中にとびこみました。さて、どんな面白いことがあつたのでしようか。大ジャンプをしたスーちやんは、不意にそのかわいいお白粉のパフのような尾を、くぎにひつかけてしまいました。スクーター君がふりかえつて、ひつかかつているのを見ると、とびよつてきて、叫びました。
「ああ、これは大へんだ。
どうしたらよいのだろう？
けがをしたろう、スーちやん？」
スーちやんは泣いて、うなづきました。スクーター君は、あたりを見まわしましたが、スーちやんの足臺になるものが見あたりません。そこで、ふと思いついて、叫びました。

「ぼく、そこへわらを持つてきて、
高く、深く、ひろく積み上げよう。
それから君の尾をひつぱろう。
そしてそろつと、くぎからはずそうよ。」
そこでスクーター君は、一生懸命にわらを積み上げました。それを前足でかいて、後足でかためました。スーちやんの足臺になるまでかたくしつかりと。スーちやんはその上にのると、尾の先をはずして、くぎからずべらせました。
二匹がお家へ着くと、スクーター君はお母さんのところへかけて行つて、叫びました。
お母さん、ぼくはうそがつけません。
スーちやんを泣かせたのは、ぼくですよ。
ぼくが、納屋なんかに行かなかつたら、
けがはしませんでした。
ぼく、とても悪いことをしました。
おしりをたたいて下さい。」
やがてスクーターはうなだれて、二つの大きな涙の川が、そのやわらかな毛に覆われた小さな鼻から、走り落ちました。スーちやんは、小さなハンカチーフを出して、それをふいてあげました。お母さん兎は二匹を腕の中に、しつかりと抱いて、お臺所のストーヴの側にすわりました。
やがてお母さんは、二匹をしずかにゆり動かしながらうたいました。
「あなたが、ほんとうのことを
おつしやつたのがうれしいのよ。
いつかね、だんだんにね、
あなたがスクーター・ワシントンとなつて
みんなにしられますよ。
うそをつかないスクーターさんと。」

（ルース・ラインド・キルバーン女史の作から）

ぼうけん

ぴこちやんのお話

美知子

ぼくは、ねこの、ぴこです。

きょうは、やすじくんの、たんじょうびでした。おゆうはんには、おいしい おすし、おさかな、にく、しゆうくりーむ、みかん、いつぱい ごちそうが ありました。ぼくもうんと たべました。そしたら、みずが のみたく なりました。だいどころへ いつて、みずを のみました。こんどは すこし うんどうが したく なりました。だいどころの だいの うえに、とびあがりました。たいへん、いいぐあいです。おもいきり、とんでみたく なりました。

わん つう すりー

しようじの ほうへ ぽーんと とびました。

すてき！ すてき！

ばさつと しようじが やぶけて、おちやのまへ どすんと とびこみました。

「やあー たーざん、たーざん、ぴこの たーざんだあーい。」

と、やすじくんが ほめて くれました。

「どうです。うまいもんでしよう。」

ぼくは うれしくなつて、ひげを ぴんとはつて、おとくいに なりました。

すると、おぜんの むこうで ゆうかんをみて いらつしやつた おとうさんが、じろりと ぼくを にらんで、

「こらつ。」

と、おしかりに なりました。

やすじくんは、

「おとうさん、しかつちや かわいそうだよ。ぴこだつて ぼうけんが すきなんだよ。」

と、いいました。

「そのとおり、そのとおり、ほんとに そうです。」

ぼくは やすじくんの ひざこぞうに はなを、すりつけながら、にやーご にやーご

と、やすじくんを　ほめました。
ねこの　こころが　わかるのは　たいへんえらいことです。
おかあさんが　こまつたように、
「ぼうけんは　あぶなくてね。いつかも
やすじは　こたつの　うえから　とびおりたでしよう。おかあさん　びつくりしたわ。」
と、おつしやいました。
「おかあさんは　あぶないこと　なんでもきらい？」
と、おねえさんの　としこさんが　ききました。
「ええ、ええ、きらいですとも。おうちのなかで　たーざんごつこなんか　まつぴら。けがをしたら　たいへん　なにかが　こわれても　こまるでしよう。ほら、その　あなだつて　すぐ　はらなきやね。かぜが　はいつて　さむいことよ。」
おかあさんの　おはなしを　きいて、ふりむいて　みると、なーるほど、ぼくの　でいりぐちから　三だんも　うえの　こまが、ぽさつと　やぶれて　います。
やつぱり　うちのなかのぼうけんは、だめだな。
そこで、ぼくは　かんがえました。
あぶなくなくて、たのしい　ぼうけん。あつ、そう　そう、それは　きのぼりです。ぼくは　にわじゆうの　たいていの　きに、のぼりました。もみぢ、かき、くり、うつぎ、うめ。あの　つる〳〵すべる　いちようのてつぺんにも　のぼつたことが　あります。
たかい　きのえだに　こしかけて、とおくを　みるのは、じつに　ゆかいです。むこうの　もりに　かくれてゆく　でんしやが、ぼくの　だいすきな　ねずみより　ちいさくみえます。あおい　そらに、ぶん〳〵　うなつている　たこも、まるみえです。
こんど　ぼくは、やすじくんに、いつしようけんめい、きのぼりを　おしえて　あげるつもりです。

ふえた幼稚園

勤人が積極的

東京都内の私立幼稚園は終戦直後の廿二年三月には七十六校だつたが、昨年一月には百六十三校、さらにこの一年に百校以上もふえ十二月現在三百四十八校と急激な増加ぶりを示し、十八年當時の二百六十四校を上回つている。
區別では世田谷の卅五校を筆頭に大田廿九校、港廿校などでサラリーマンの多い區が多く荒川、足立、墨田、江東などの商工業地帶はいずれも二、三校
増えた原因は幼稚園教育が重視され一般の關心が高まつたことや學費が三―四百圓で安心してコドモを預けておけるので、とくに勤人が積極的なことなどとみられる。
（昭二五、一二、一四　讀賣新聞による

幼兒の社會性の發達の調査記錄

渡邊俊枝

幼兒は三才頃より社會性をもつというが幼稚園兒は一體どの樣にして家庭から幼稚園えの社會化をしていくかについて實態を調査し、その心理的狀態を求めて教育の資料とすることを計畫し登園及グループ構成の調査をした。

一、登園調査

幼兒が家を出るときの態度について次の三段階に分け毎日家庭で記入をして貰うことにした。

1、家を出るとき喜んで出たか。

2、家を出るとき出しぶつたか。

3、ぐずつて休んだか。

調査人員は園兒一一〇名で、四月から六月まで調査をした。喜んで出た者は大體九五%保つているので、こゝに幼兒の出しぶる狀態を圖表にした。（圖表1）

四月、第一週（一五日迄）は出しぶる者平均二名、ぐずつて休む者は一人もいない。これは期待した幼稚園生活に興味をもつて出て來たのである。しかし第二、三週になると出しぶる傾向を強く見せ三人から最高七人にまでなつてゐるし休む者もこれに平行して出て來たことである。この幼兒達の中には常に母から離れられない者三名、幼稚園まで送らなければならない者一名という問題兒が四名ある。この事は一般に社會化がされていないために幼稚園えの興味だけでは出發出來ないのでこの狀態が現れたのである。

五月に入ると餘り變動は見られず出しぶる者平均二人休む者はトピック的に僅かに二回あつた。この月の問題兒は送られる者二名殘つている。四月に較べて幼兒の調子が一定して來た樣で全體的に見て好調である。

六月には五月の狀態からいくと當然數字が低下していくべきが逆に昇つている結果となつた。出しぶる者平均三名休む者は月の中旬において平均一名である。調査をしてみると原因は天候及健康狀態によることが判つた。

この月は風邪百日咳の流行のため、その罹病の前後において幼兒は身體的不快から出しぶり、又雨天を厭がる幼兒雨具に馴れず氣に入らないことから出しぶることが多かつたので

ある。この月の問題兒は送られる子供一名になつた。數字的には惡くても實際の社會性態度は後退してゐないことが實證ささたのである。

次にこの調査をもとにして五才兒における保育別による出しぶる狀態を調査してみた。（圖表2）

調査人員は一年保育三〇名、二年保育三〇名である。圖表を見ると年齢的には同等であつても明かに此所に幼稚園生活經驗による社會化の差が見られる。一年保育は出しぶる者が繼續して一人―二人出ているのに對し二年保育はトピック的に一人―三人出ているのに對し二年保育はトピック的に一人―二人出ていることゝまた、その原因は一年保育は友人關係家庭關係等いろいろあるが二年保育になると〇時間に遲くれた。小中學校が五日制のための影響が殆んどであつて原因に於ても二年保育の社會性の進歩が知れるのである。

しかし幼兒は幼稚園生活に大きな興味をもち家庭で幼稚園を休ませるとなると、何としてもきかない幼兒が、どうしてこの樣な出しぶる狀態を見せるのであろうか、次に幼兒が出しぶる原因とその取扱方法について家庭の回答を求めた。回答者は六二名あつた。原因は圖表の如く七つに分けることができる。（圖表3）

この圖表によると原因が家庭内のことが一番多く二四名、次が友人關係のこと一六名、原因が幼稚園内のことは二名で最少である。原因が家庭内に多いといふことは今まで家庭生活において保護された幼兒の自己中心性があつて幼稚園へ行きたい氣持はあつても家庭に心をひかれるし、又持物、服裝

幼兒の出しぶる原因

原因	回答
1 家庭内のこと	
○服裝、持物が氣に入らぬ。	6
○家で遊びを續け度い。	6
○時間に遲れた。	6
○五日制の影響。	5
○家庭で行事がある。	3
○母が他所へ出かける。	2
○傷の手當が氣に入らない。	1
	1
2 個人としての發達狀況	
○獨りで行けない。	3
○甘えている。	1
3 友人關係	
○友だちに先に行かれた。	7
○友達の好き嫌い。	1
○友だちにいぢめられる。	8
4 途中の障害	
○いぢめられる（關兒外）	5
5 幼稚園内のこと	
○よく遊べなかつた。	2
6 天候の具合	5
7 身體狀況	6

圖表 3

等が變つていると幼稚園の誰れかに何か言われやしないかといふ社會生活への心配がある爲である。友人關係については保護されてゐた家庭から幼稚園に出ると同年齢の者の集團生活のため皆同等である。そこに質的な變化が起り互の衝突が生れる。この衝突は大抵は力によつて處理されるので團體生活に經驗の淺い幼兒は、社會交渉の身構えが出來ていない爲に仲間はづれにされることを非常に恐れるためである。

そこで幼兒の社會化の第一歩としてこの多くの出しぶる原因となる生活の課題を經驗を通して解決していく態度をつくることが必要となつてくる。

家庭における出しぶる原因の取扱方法を調べてみると、第一が途中まで送つてやる。第二が幼稚園への興味をそゝる樣に話してやる。第三が、障害物を取り除くの順に多く中には休ませるとか、幼稚園をやめさせると言ふ幼兒にとつて致命的な手段を取る感心しない家庭も一部あつた。

常に教育者と家庭は協力して原因をつきとめその障害を取除き安心して興味ある幼稚園へ出られる樣に、又自力でその課題の解決をしていかなくてはならない。私共はこの方向に沿つて努力して來たのであるが、現在には、出しぶる者は殆んど無く、只個人的に獨立の段階に來ない幼兒が一名殘されてゐる現狀になつてゐる。

二、グループ構成の調査

幼兒が社會化をしていくのに當然そこに友人と交渉がもたれる。朝夕連れ立つお友達のグループを如何に作つて行くか又幼稚園での遊びのグループはどの樣なものであるかと云ふことが考へられる。

幼兒のグループ構成については各方面から研究され二人―四人のグループを作ると發表されてゐるが一體當幼稚園の園兒は如何なる經路をたどつてどの程度のグループが構成されて行くかを研究してみる必要を感じたのである。

調査の目標として登園の際家庭で作つたグループ及幼稚園

登園のグループ構成

月	グループの種類	家	幼
4	1	29.0	51.7
	2	23.5	35.0
	3	22.9	9.4
	4	17.1	2.4
	5	4.5	1.5
	6	2.5	0
	7	0.5	0
5	1	30.0	40.4
	2	29.1	41.0
	3	26.5	10.6
	4	10.5	6.0
	5	2.5	2.0
	6	0.9	0
	7	0.5	0
6	1	38.6	43.0
	2	33.3	31.0
	3	17.7	16.5
	4	8.2	6.0
	5	1.5	3.5
	6	0.5	0
	7	0.2	0
9	1	46.0	37.0
	2	34.0	32.0
	3	17.0	15.0
	4	3.0	8.0
	5	0	5.0
	6	0	3.0
	7	0	0

圖表 4

に到着した時のグループを調査しその比較と變化を知ることである。

調査方法

調査人員園兒一〇〇名につき家庭から出る時のグループを家庭で記錄

幼稚園へ着いた時のグループを幼稚園入口で教師が記錄する。これを四月から六月迄繼續し、其の後の變化を九月に調査した。

圖表4はグループの構成範圍とグループの數（例、二人のグループを作つた者が何人あつたか）を月毎の平均數を出し家庭と幼稚園別に表してみた。

1、六月迄を通して家庭と幼稚園別に見る。

家庭で作つたグループ範圍は廣く七人迄に成つていて、そのグループを作つた人數の狀態は四月は一〇人以上が作つたグループは四人（一七・一）迄で、五月には同じく四人（一〇・五）迄であるが、六月は三人（一七・七）迄と幼兒が多く作るグループの範圍が次第に狹くなつて來ている。之に對し、幼稚園に着いた時のグループ範圍は家庭よりも狹く五人迄になつてゐること。グループを作つた人數の狀態は一〇人以上が作つたグループが、四月は二人（三五・〇）五月は三人（一〇・六）迄、六月も同じく三人（一六・五）迄、又一人で來た者が斷然多いことに氣付くのである。

つまり家庭で作るグループ範圍の七人迄が幼稚園へ五人に變化し、家庭で多く作るグループ（一〇人以上が作つた）は初の四人から二人に減じ家庭のグループ構成が、次第と幼稚園のグループの姿に近づいて來てゐることがわかる。

2、月別に家庭から幼稚園へのグループの變化を幼兒の生活狀況から詳細に見てみよう。

四月は、家庭で親が友人を誘はせたり誘つて貰つたり又二年保育の幼兒が、新らしい友達への興味から作つたグループである。

しかし社會化の出來ていない幼兒にとつてはその時だけのグループで幼兒同志の交渉の方法を知らない爲結局幼稚園に着いた時にはこの形が破壞され一人が半數以上になりグループで來ても只平行して歩いて來たに過ぎなかつた。別に樂しそうな樣子も無く何の交渉も持たれない者が、多く見られたのである。

五月は、四月に家庭で作られたグループは大きく無理なものであつた爲に、家庭で作るグループは自然に少さいグループになる傾向をもち二人、三人を作る數が多くなつて來た。この頃の幼兒の態度はお互の交渉もボツ〳〵出來て幼兒たちの表情もほぐれて來ている。六月は、幼兒は幼稚園生活に馴れ安心して來たのであろう。友人間の交渉も面白くなつて來た樣子である。この月に入ると家庭と幼稚園のグループの數がずつと接近して變化が少くなつた。即ち家庭で作るグループが人爲的なものから、子供自身が作るグループになつて來た爲、幼稚園への變化が少くなつて來たのである。

また幼稚園のグループを見ると、幼兒の作るグループの三

人↓五人迄の數が增して來たこと等、幼兒の社會性の進歩を示すものである。

この圖表を通して幼稚園へ獨りで來る者が多かつたことである。結局人爲的なグループは幼兒自身破壞し、自分で好みのグループを　つて行くことを示すことが解つた。

3、九月のグループ構成はどうであるか。

九月は六月に較べて大きな變化をした興味ある數を見ることが出來た。今までのグループ構成の形が、九月に入つて幼稚園と家庭とが逆になつた狀態である。

即ち家から一人で出る者が平均四六人にもなり、家庭のグループ範圍が四人迄になつてずつと狹くなつた事である。これは社會性の發達によつて幼兒自身の獨立が出來る樣になり友人が來なくても一人で家を出られる樣になつた。またグループも無理なものは作らずに濟む狀態になつたのである。

幼稚園に於てはグループ範圍が擴がつて六人になりグループの數も一般に增してゐるのは、家庭で作つた自然なグループで出發した幼兒は登園の途中において友人の交涉が出來大勢でグループを作つて喜んで樂しく幼稚園に來られる樣になつたのである。

幼兒のこの樣なグループ構成狀態からみて幼兒といふものはその自然の社會性によつて友人を求め交涉をするが、そこに衝突があり、妥協があつたりして、グループ內において友人を知り自分を知つて自分といふ者の獨立が次第となされるこの獨立を土臺に又グループ構成をうまく或は廣くし自己中心から社會化へと積上げて行くのである。

最初の頃の樣にグループでは出るが、獨りで家を出ることの出來ないのはグループに賴る社會性、何かに賴る社會性なのであつた。

家を　人で出られるのは獨立性が出來てこそ、又、グループも樂しく大きく發達していけるのである。

幼兒のこの社會的自主性が見られ登園グループも次第とよく作る樣になつた此頃、保育別にグループ構成はどの樣なものであらうか。

4、五歲兒が九月に於ける保育別によるグループ構成を見る。

調査方法

幼兒が幼稚園に來たときのグループを幼兒一人づゝについて、九月十、十一、十二日の三日間調査をした。

調査人員は一年保育　二年保育兒共二五名である。（圖表3）

この調査によると、グループの範圍は一年保育が四人に對し二年保育は六人迄構成してゐること。グループを作つた數は一年保育は二人のグループが平均九・三人で一番多いのに對し、二年保育は二人が六・六人で、一年保育より少い。しかし其他のグループにおいては一年保育より多く作ることが解る。

つまり二年保育兒は二人以上のグループを多く作ることができるというのである。

又、遊びのグループも同じ樣なことが云える。幼兒の行動

保育別によるグループ構成

（圖表5）

二年保育		一年保育		調査日	グループの種類
平均 11	16	平均 10	10	10	1
	8		8	11	
	9		12	13	
6.6	4	9.3	11	10	2
	9		10	11	
	7		8	13	
3.3	1	4.3	5	10	3
	4		6	11	
	6		3	13	
1.3	1	0.6	0	10	4
	1		0	11	
	2		2	13	
1.6	3	0	0	10	5
	2		0	11	
	0		0	13	
0.6	0	0	0	10	6
	1		0	11	
	1		0	13	

調査をしてみると、二年保育兒は相當大グループを作り十人迄形成することがあり、幼兒の興味ある社會遊びが展開されグループ遊びの繼續時間も三十分以上保つことがしば〳〵である。

これらの調査によつて現在當園に於ける幼兒のグループ構成は二人から四人を作ることと、その内に二人のグループが一番多く作られる段階にあることが解つた。

以上の社會性の發達についての調査は數字的に期待される變化は見られず、グループ構成も當園兒の實證というもので調査の勞力に對して大した研究は出來なかつた。

しかし内容に於て幼兒が質的な變化をして來ていることは見逃してはならないと思うのである。それは幼兒は最初近隣關係から結ばれたグループを作るうちに、グループの中で自己が自主性を持つ樣に發達し、一人で多く家を出る樣になり、登園の途中に於て友だちをつくることが來る樣に成つたことである。卽ち家族的地域の結合から園兒としての同類の結合へと社會性の質的發達をしつゝあると考へられる。

家庭から幼稚園への生活は自主性と質の變化による友交關係の進歩に影響を與へたと云へよう。

そこでこれらの研究課題として幼兒にグループ遊びの協力による樂しさを經驗させると共に協調性を持たない幼兒の指導を研究し、グループ發達の變化を三月にもう一度調査する豫定である。

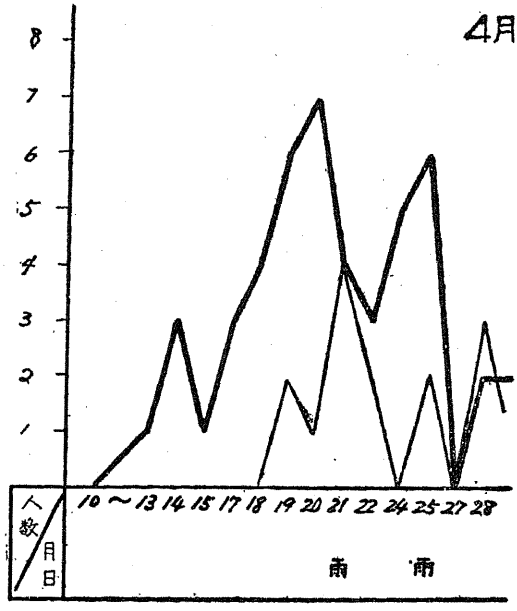
図表1

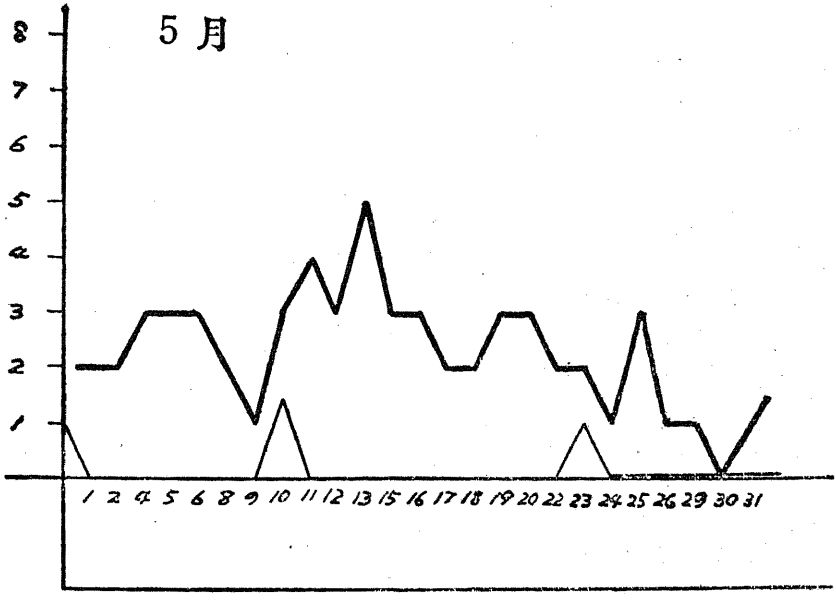
出しぶる幼児

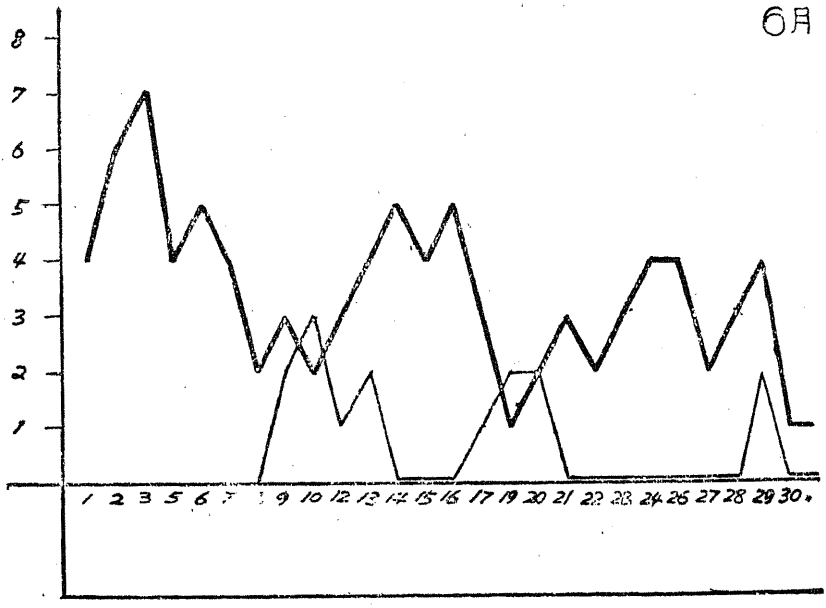
全園児について

出しぶって休む

出しぶる







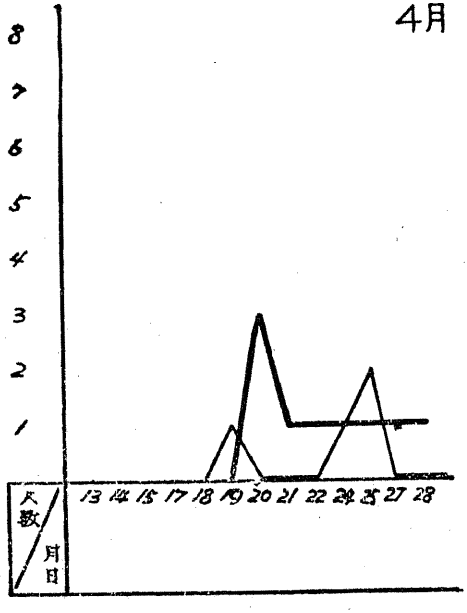
図表2

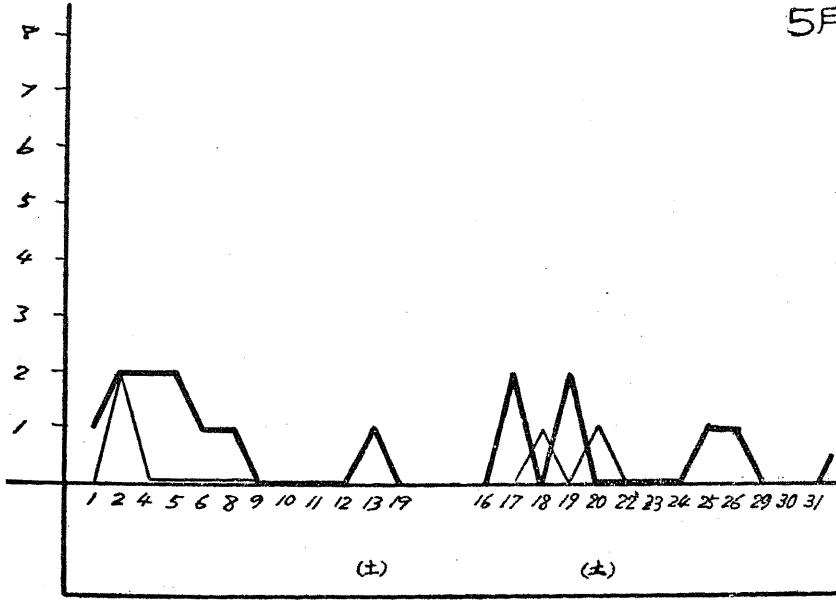
保育別による

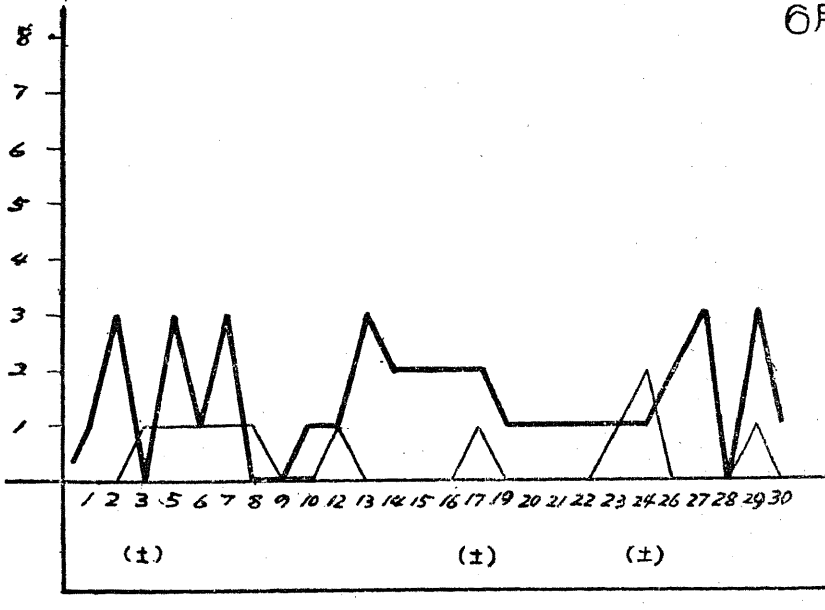
出しぶる幼児へ

一年保育児 ‖

二年保育児 |




5月
8
7
6
5
4
3
2
1
1 2 4 5 6 8 9 10 11 12 13 19 16 17 18 19 20 22 23 24 25 26 29 30 31
(土)
(土)


6月
8
7
6
5
4
3
2
1
1 2 3 5 6 7 8 9 10 12 13 14 15 16 17 19 20 21 22 23 24 26 27 28 29 30
(土)
(土)
(土)

子供讃歌（一五）

倉橋惣三

一四　お召しをうけて

1　赤坂離宮

待從さんと並んでお待ちうけしていると、じゅうたんを敷きつめた階段を、おそろいで登つて來られた。新しいカラーに新しいネクタイを堅く結んで、謹ましく立つている彼の前に、あまりにも間近く御會釋を賜つたお若いお姿に彼はまづ氣をやわらげられた。兒童心理の連續講義に、赤坂離宮の攝政御殿に召された第一日の朝である。それから、お後に從つて講義の間に進んだが、お着席のとき、靜かにお話あいになつたお笑い聲のなごやかさに、彼の緊張はいよ／＼ゆるめられて、乳幼兒精神發達の第一講に入つた。彼はなるべくらくに興味多くお話を進めることを心がけ、引用の具體例も、市井の家庭生活からとることを考えていた。彼が謹嚴を心がけても、たかが知れたものであるし、高貴の生活にあわせての例などは、素より持ちあわせている筈がない。身分相應な卒直さが一番禮にかなうだろうと思つていた。それで、子供の精神發達の原理としての自己實驗（ゼルブスト　エキスペリメンチールング）の實例にも、破れ障子を指で突いて孔をあけるところなんかを、ゼスチュアーで描いた。破れ障子はまだいゝとして、そゝけだつた古疊の上を胴いまわりながら、破れた疊のへりを指でつまんでみたがる光景は、下世話過ぎて御諒解にむづかしかつたかも知れないが、おかしそうにお笑いになつたりした。彼の口は、だん／＼と輕くなつていつた。

皇女の御生誕と共に、「親としての御勉強」という思召しは、彼の心を、光榮感よりも歡喜感で充たしたのであつた。彼の兒童心理學も家庭教育學も、つまりは、人間の子が人間の親の愛に育つ話である。人間性を外にして、彼の學說（？）に生命はない。その人間性が、どこまで、いつもの通りに說き出せるものかということが、實は聊かの懸

念であつた。ところが、この懸念は全く無用であつた。

いつも控えの間でいつしよになつた清水澄博士の御進講は、憲法（もとより舊憲法）についてゞあつたが、それが、どれだけ人間的のものであつたかは知らないとして、彼の課題は元來人間性そのものゝ研究であるといつていゝ。彼が例として引く親は、必ずしも八さん熊さんではないが、世間ありふれた、あたりまえの親であり、そこに出てくる子供は必ずしも鼻垂れやんちやではないが、町や村にありふれた子供だつた。彼のよく知つているのは、そういう親と子とだけだつたし、人間性の例として、彼等は決して卑しい例でもなく憚るべき例でもないと、彼は信じていた。——それにしても、こういうことを申上げ得られるのも、子供を語るものゝ幸福である。（昭和三年）

2 御内儀

幾年の後、御内儀のお講義室に召されるようになつた時は、離宮の時よりも嚴かなるべきことであつたが、その前に一週と二週短い御進講を度び重ねた後でもありなどやかに數年つゞきの『兒童教育問題』を御進講申上げ得られた。

お内儀らしく美しいお床の間には、週毎に床軸がかけかえられ、美事なお花が活けかえられてあつた。殊に床脇の違い棚には、何びとの献上品でもあろうか、紋服袴の福助と打かけ姿のお多福との人形が、ふく〳〵しくもにこやかな笑顔をして二つの硝子箱の中でならんでいた。或はふざけやの彼のためへのお心入れもあつたろうか。彼も一度となく二度となく、お話の中へ福助夫婦（？）を引あいに出した。其長いお講義の終りに近く、思いがけず特にお使いを以てこの好友を御下賜いたゞき、彼の家の家寶になつている。

彼は、兒童教育の問題を、前講を承けて、家庭、學校、社會に亘らせ、時にはいろ〳〵の幼兒の作品を大テーブルに陳べ、時にはさま〳〵の兒童生活の寫眞を衝立にはり、彼の言葉よりも、子供ら自身をして、問題の在りかと解說を語らせていくように仕組んだりした。その寫眞の子供らの中には、紙芝居を追う町の子らもあり、草野の日なたを馳けまわる田舍の子らもあり、勞働兒童もあり、異常兒童もあり、感化院の少年らもあつた。つまり、彼が日頃愛しもし憂えもしている日本の子供の生活の諸相を、ありのまゝに描きだしたといつていゝ。そして、それらの子供は、問題として種々異つた面を提供するとしても、子供としての貴さと、日本の子供としての大切さにおいては、いづれも差がないというのが、彼の長い講述を一貫するものであつた。これは、いつも彼の心にあることである。しかも、

こういう言葉を用いて差支えないものならば、此時彼自身の平常よりも、廣く高いところに目をおいて、日本の子供の問題を考える機會を與えられたといつていゝ、但、とはいうものゝ、甚だ到らざる盡さざるを當に思つたのであるが、それを、お卓子の上でノートせられる御熱心を拜しては、たとえば溫い潮の海に滿ちてくるような思いを、小さい胸に禁じ得なかつたのである。

これはもう、『親としての御勉強』に止まるものではない。又、たゞ一般の御敎養に止まるものでもない。日本の子供の福祉と敎育への御關心と御慈心のお時間である。そして、それが彼の生涯『子供讃歌』の中の、最も意を鎭めた貴重な章節であつたことは、いうまでもない。こちたき論議は知らないが、こうして、純一な兒童愛が中心になつている場に、湧くものも、溢れるものも、流れるものも、うるおい漲るものも、豊かなる人間性である。人間性の話は人間性によつてのみ理解せられる。彼は、いつも此の人間的喜悅をもつて參內した。また此の人間的滿足をもつて退下した。子供の無邪氣とあどけなさが、最も人間的眞實を以て受けとられると信ずる喜悅をもつて、又、子供を愛する精神とはたらきが、最も人間的に共感せられると信ずる滿足をもつて。——更に卒直な言葉がゆるされるならば、人間としての子供について、最もよき聽取者の前に出るという實感を以て、毎週が彼を幸福にした。『人間』。萬古變りなき言葉であり事實ある。（昭和九、十、十一、十二年）

3　東宮假御所

前の年の秋から、學習院幼稚園の先生と幼兒とをお召しになつて、赤坂の東宮假御所の御苑內の建物に、幼稚園を開かれた。その假御所へ、一週一二度であるが、お相手に上ることが、どんなに樂しいことであつたろう。幼稚園の幼兒らが上らない日には、お附きの人々といつしよにお庭で御いつしよに遊ぶ。仰せつかつている任務を心得つゝもつい自分で興じて仕舞う彼であつた。

困つたことに、遊び方の不得手な彼は、何をしてもまづい。お池の釣には、餌ばつかりとられる。まり投げではミスばかりつゞける。自轉車に乘れないので三輪車を貸していたゞいて、よち〳〵とやるが、それでも急ぐと運轉しそこなうのだから、我れながら手がつけられない。お採りになる草の名は知らないし、いろ〳〵の虫を平氣でおつかまえになつてお渡しになるのには、有り難く手をひつこめる。こんな不手際なお相手ではあるけれども、長年の保育者

としての彼の經驗から、優れた御生來の數々を見落しはしなかつた。その上、傳育官諸君の正しい御指導を得ていられるので、何を補うということもなかつた。こうして、だん〳〵お親しみをいたゞいたが、彼としては、一切御機嫌をとるということをしないように、堅く自分に言いつけた。保育法の原則として、お茶の水の幼稚園兒たちに對している時と同じである。

假御所の四季は美しい。廣い御苑内に丘があり、流れがあり、森がある。御いつしよにエキスカーションをするだけでも、相當の運動である。待醫寮の積極的保健の方針もあつて、室外の御生活が多いが、普通の幼稚園でいえば、毎日一とかどの園外保育である。從つて、自然保育、自由保育の時間は、彼の懸念に反して、お茶の水の幼稚園よりも充分といつていゝ位であつた。自然と自由とは、もとより保育のすべてではないが、性格に、のびやかさとゆるやかさとを培う。のびやかさは己を直くする必須條件であり、ゆるやかさは他をゆるす寛い心の基である。己を直くすることゝ、他をゆるす心とは、敬愛を受くるの眞價である。こちらへ上る前に、なんとなく考えていた懸念を、彼は全く忘れた。

夏、御避暑の葉山御用邸へ伺つた時のことである。渚づたいに、貝がらや、海草の採集をしているうちに、水たまりに打ちあげられている小さい子だこがお目にとまつた。すぐおつかまえになつて、おもちやのバケツに入れられたが、それを大事に持つことを彼に命ぜられた。彼は、それを逃がしてはならぬと、大事に提げて歩いたが、水が少しか入つていないのに氣がついて、海水を汲み入れてやろうと思つた。そこで岩のさきに出て、バケツを海につけて靜に水をふやそうとした。そのとき波が來た。驚いてバケツを上げたが、その瞬間、ひく波と共に子だこが逃げたら大變である。貴重の保管物である。彼はどきつとした。顏色も變つたかも知れない。おそる〳〵バケツを、のぞいてると貴重品が見えないではないか。彼の顏色はいよ〳〵變つたに相違ない。あの子だこはと仰せられたら何んと、しようか。大失態である。すると、よくみると、居た居た。波といつしよに入つた砂の下に、小さいながらたこの形のまるい小さい頭を埋めて居た。彼はほつとした。そうして、後でそのことを申上げたら、お笑いになつたゞけだしみお附きの人に話したら、『そん時心配はいりませんよ。何事もお咎めになるということはありませんから』というのが答えであつた。こんなことは、まゝあつたが、あの子だこと、その時の貴い喜びとは長く忘れない。（昭和十三、十四年）

4 青山御殿

まだ御いとけなかつた弟宮のお相手には、青山御殿のお庭では、お附きの女官や若いお附らとお遊戯をして踊つたり、興津の御用邸の涼しいお二階ではおとぎ話を申上げたり、紙芝居を演じてお見せしたりした。そのお附きの中には、女高師の保育實習科出から御推擧したものも居たので、『先生』（彼のこと）の演藝のまづさが、おかしいといつては聲を立てゝ笑つたりした。それをまた、傳育官の諸君が面白がつて笑つたりした。彼は、わざとおかしくするのではないが、自然とそうなるのだから仕方がない。彼女たちは、ふだん理論を說く『先生』の眞相（？）を發見して喜んだのかも知れないが、まづいのは何んとしても相濟まないことだ。それでも彼はせい一ぱいであつたのである。

那須の御用邸での御散歩の時である。山を少し奥にはいつた處に、細い丸木橋があつた。彼は、ものを渡るということに暈病で、兵營時代、梁木を渡らせられるのにいつも足がふるえた方である。（見せかけは、りきんでいたけれども）その橋は勿論、そんな高いものではないが、下には低い溪流がある。彼が、どうしたものかと、一寸たじろんでいると、お附きの人が先頭を申し上げる後から、どん〳〵お渡りになる。多分、幾度びかお渡りになつて、決して危險でないことが、皆に證明されていたことに相違ないが（素よりのことである）彼は、向う岸へお渡りきりになつた後で、ふとつた短い足をしづ〳〵とこそは橋の上にのせた。

勇氣の鍛錬ということは、彼の常に論ずることであるが、その實行は必ずしも容易でない。特に、そのむづかしさが最も多いと思われるのに、この實際を見て、この御保育に大に敬意を感じたのであつた。このたぐいの場面も幾度かあつたが、あの溪流の丸木橋は、今もあり〳〵と思いだされる。（昭和十四、五年）

『召されてと題して、こういう事柄を筆にすることを、彼は、幾度びか差控えた。しかし、彼の『子供讃歌』を飾るものとしてよりも、『子供讃歌』のあらゆる場合の眞實を唱詠する心で、此の筆をとつた。召されたのだから、何かの御用もあつたのであろうが、それを果したというよりは、大きな『子供讃歌』の一節を、こゝでも歌わせていたゞいた感激の日の記錄として。

『子供』。あらゆる場で、その貴さが高唱る言葉でもある。

いつも頂戴して歸るお菓子は、必ず父と母との寫眞に供えた。彼がこうしたお召をうけていることを、最も喜んでくれると思う父と母との平生の心を思い浮べては。

講話

幼兒の健康保育（八）

お茶の水女子大學助教授
愛育研究所員　平井信義

或る年、或る幼稚園で經驗したお話をしましよう。それも丁度寒い十二月のことで、私はその頃になるといつもこの出來ごとを思い出すのです。

そのお話というのは、朝の出勤が遲くなつた幼稚園の先生のお話です。秋頃までは、必ず子供たちより早く來て、すつかり窓を開け放ち、月曜日の朝などは塵の積つた臺をふいて花瓶には花を挿し、一と廻り保育室を見廻してから……、いよいよその日の保育案に沿つて、東の隅には積木を並べ、南の机には畫用紙とクレイヨンを揃え、ピアノにはやさしい音譜をおいて……、と甲斐々々しく働いている樣子を見て、私は子供たちのために、頭を下げていました。

子供たちを迎えるその晴々しい顏と、すがすがしい聲は保育室いつぱいに擴り、子供たちの顏もからだもはづんだ樣に飛び上ります。「おはよう、清ちやん」そう云いながら、すばやく清ちやんの顏、からだ、手、足と見廻し視診をはこびながら「さあ、お手を洗つてうがいをするのでしたね」と促す樣子は、涙の出るほどうれしいものでした。

その先生は、私がしばらく旅行して歸つていつてみると、朝八時半になるのにまだ來てない、子供たちが二・三人、バスケツトを手にしたまま所在なさそうに戸口のところに立つている、――迎えるものがいないのです。朝の先生の顏が見えないのです。三人・四人と子供がふえて來る頃になつて、漸くその先生がやつて來ました。「先生、おはよう」子供たちが挨拶をするのに、小さな聲で答えて保育室の戸を開きます。中はむれくさい。先生はあわてゝ窓をあけ樣としますが、ところどころ引懸かつてなかなかあかないので、焦々した樣に音を立てゝいます。私は彼女に知れぬ樣に見ていたのですが、この變り樣にはびつくりしてしまいました。

どうしたのだろうか、何か家庭にごたごたがあつたのか、思想的な惱みにぶつかつているのだろうか、或いは戀愛か、

或いは體が悪いのでは。私は……彼女の健康狀態をきいてみました。すると「近頃疲れて朝がなかなか起きられない」というのです。夜更しの朝寝坊もありましよう。運動がきつくて起きられないこともありましよう。然しこの先生の場合は「たいぎ」だつたのです。早速私は病院のレントゲン臺に連れて行きました。悲しい哉！　豫想は適中して、右の肺の上の方に浸潤が見つかりました。矢張、肺浸潤が始つたところだつたのです。

冬になるといつもこの先生の顔を思いだします。そして、幼稚園の先生方がどなたも、いつもいつも健康であつて、子供たちのために生き生きとした保育をして下さることを、毎日祈らずにはいられません。

七　豫防注射とその意味

子供たちの幸福を願つている醫者――、それは早く癒す醫者或いは命を助ける醫者よりも、子供たちを病氣にかけない樣に注意する醫者であると信じます。世の中には、病氣さえしなければ醫者にかゝる必要はない、と考えている人が澤山います。うちの子供は一回も醫者にかゝつたことがない、と得意になつているお母さんもあります。そのこと自體は祝福すべきでしようが、その考え方は困つたものです。

アメリカでは醫者が扱う子供の五〇％以上が健康相談であるということです。十人の診察をすれば五人が健康なる子供であり、往診といえば同樣に育て方或いは現在の健康についての相談であるのです。アメリカは子供の死亡率の最も少い國です。文化が進むとこの樣に豫防醫學に力を注がれるのであります。病氣にかけない樣に――何と有難いことでありましようか、何とうれしいことでしようか、病氣を癒すことが上手な醫者がどんなに多くても、子供を病氣にしたときの心配と經費とは莫大なものです。誰だつて子供を病氣にしたくないでしよう。私共醫者も病氣を癒す醫者を廢業して、病氣にかけない醫者に早く轉向したいのです。病氣がなくなつたら失業だろうと心配する方もありますが、心配御無用、人體の秘密は無盡藏であり、それらを解く鍵を作るために、澤山の醫者が必要なのです。病人にかける費用で、結構私共を雇つてくれる研究所が出來てしまうことでしよう。兎に角、子供の本當の幸せを考えましよう。病氣にかけない樣に努力しておきましよう。

それにはいろいろありますが、傳染病に對してはいろいろ豫防注射があります。これからそのお話をいたしましよう。

それらの中子供にとつて大切な豫防法は、天然痘には種痘結核にはB・C・G、痲疹には人血清、ジフテリアにはアナトキシン、百日咳にはワクチンがあります。之らは既に一昨年、豫防接種法という法律が議會を通過してどの子供も注射をうけなければならなかつた筈です。そして之らの接種を受けないと、罰金ということまで決つたのです。「之で私たち『病氣にかけない醫者』が毎日々々口を酸つぱくして豫防注射を說かなくてもよくなつた」と喜び合いました。處が不幸

なことに、そのすぐあとに、ジフテリア注射液による大慘害が起きたのであります。皆さんも御存じでしよう、ジフテリアの豫防注射をうけた子供が、澤山死亡するという事件が持上つたのであります。死なないまでも注射をうけた部分が大きくくずれ落ちてしまつたという子供も、數百名に上ります。大變な事件です。この種の事件で世界的に有名なのはドイツにおきたB・C・Gによる大慘害であります。之もB・C・Gを內服した子供が、矢張百名近く結核になつてしまつたという事件であります。

こんなことがあれば、豫防注射を誰もするものはありません。したがるものではありません。遂に、するのはおよしなさい、といゝふらすのであります。人々が云いふらすまでも政府ではその注射液の使用を禁止しました。G・H・Qの人達まで大變に心配して下さつて、兎に角、總ての豫防注射を安心して使えるまでは、嚴重な檢査をうけなければ、注射液を賣出すことが出來ない樣になつたのです。この樣なわけで總て再出發、——間違いのない藥が出來る迄に二年を經て、漸くこの頃市販される樣になりました。

この樣なわけで、前に決つた豫防接種法という法律は二年の間、有名無實でありました。然し昨今、藥が整備されるや再びこの法律が云われ始めました。保健所が私共の健康を管理するセンターでありますから、保健所から通知されて、保健所でこれを受ける形となります。ところが、保健所は今お醫者が少く、結核や性病の對策だけでも手一杯のところが多いときゝます。なかなか子供の健康には手が屆かない、というのが實際でしよう。近い將來必ずこれらの豫防接種は、すべて、誰も、保健所で行われるということになります。保健所のお醫者が不親切だ、ということをきゝますが、本當なら殘念なこと、恐らく忙しいためでしよう。稅金を拂わない人がなくなつて、保健所に澤山のお金が廻され、そこによいお醫者が集まれば、親切に答えてくれる暇も出來ることでしよう。

之らの豫防接種法がきまつたのは、誰もが之らのよいことを認めたからであります。この豫防接種法があるために、澤山な人が、澤山な子供がいろいろな病氣から護ることが出來る、という科學的な事實が證明されたからであります。今日、之に逆らうことをいう人は、文化に逆行する人であり、子供たちの幸福を眞に考えない人であります。

幼稚園などで豫防注射を行わうとすると、何でも毛嫌いをするお母さんがあります。そして驚いたことには、その押しをお醫者がしていることがしばしば見受けられます。例えばB・C・Gをすると結核になるぞ、というが如きであります。成程、ドイツでは不幸な事件が起きましたけれど、それは何かの手違いで、B・C・Gそのものには何も惡いことがなかつたのであります。我が國のジフテリア豫防液も、檢査さえしつかりしていれば、決して起らなかつた事件であります。

豫防注射をすると熱が出て子供の氣嫌が悪い、B・C・Gはあとがつく、という非難を浴びせるゝがあります。之は事實です、こうしたことのない樣に、注射が改良されることには努力しなければなりません、然しそれだからといつて、注射をしないのは、全く馬鹿氣ています。病氣にかけて二十日も一と月も子供を苦しめることを考えれば、忽ち解決のつく問題にしよう。病氣にしないための親心なのであります。腸チフスの豫防注射が今年も行われましたが、六十三歳になるお年寄がそれを受けに保健所へいきましたら、六十歳以上は不要だといわれ、年寄のいのちを粗末にするか！　と怒つたということでありますが、之でこそ文化國家にふさわしいご老人といえましよう。「豫防注射を早くして下さい」と催促する樣になりたいものです。私共の幼稚園のお母さんたちは非常に熱心であり、園醫がたぢたぢすることがあります。

こんなことを私がくどくど申上げたわけは、豫防注射を切角幼稚園でなさろうと先生方がご努力なさると、それに反對する親たちが少くない、という聲をきゝますし、私共も以前澤山經驗いたしましたので、先生方がご說明になるのに多少とも參考になろうかと、お話したわけであります。又、切角注射をなさつても、あとでいろいろ文句をつけに來る親があります。文句をいう親は大概きまつている樣ですが、先生もその應接にはずい分不愉快なことがあるでしよう。しかしはつきりした知識がないと、親にまくしたてられて、しよんぼりしてしまい、もう豫防注射などしまい、と思つてしまう方もありましよう。それでは困ります。先生方の手で、豫防接種の意味が、お母さんたちにわかつてもらえることも、望まれてならないのです。先生方も、子供の健康を護る大切な方々であることをも、併せて自覺していたゞきたかつたのです。

扨て、一つ一つの豫防接種について申上げましよう。

第一に種痘でありますが、この意味は知らない人はありますまい。反對する人もないでしよう。然し今から百五十年前ジエンナーが之をはじめて唱えたときは、大變な反對であつたことが傳えられています。定期の種痘は、以前は二回でありましたが、今度は三回で、學校に上る前半年の間にもう一度することになりました。そのわけは、赤ちやんのときにしたきりでは、中にその効力が消えてしまう人があることがわかつたからです。幼稚園一年保育の子供には、恐らく保健所から通知が來ることと思います。

種痘のやり方も多少變つたことに氣付いている方もありましよう。×點をつける代りに針の先で何回もつゝいたりこすつたりするやり方であります。どちらでも差支えないのですが、新らしい方法はアメリカの人に教えられたのです。

もう一つ變つたことは證明書です。以前はなかなか重々しい紙を使つて、善感二顆などと書き、佛壇などえ貴重品の樣にしまわれていましたが、この頃の紙は小さく全くお粗末であり、書いてあることも、完全痘痕・不完全痘痕、或いは免

疫反應などと、ついたのだか、つかないのだかわからないことが書いてあります。完全痘痂も不完全痘痂もついたことです。免疫反應とは、つかないが、まだ體の中には抵抗があることを云います。陰性だけはやり直しの必要があります。

種痘はつけば一週間目位にその場處がはれて膿疱が出來、熱が出るのが普通です。そしてあとを殘して癒ります。このあとが殘るのは、美人を作るためには非常に殘念なことですので、殊に女兒は、將來見えないところにしてやりたいと思います。大腿部（太股）がよいと思いますが、もう十年もしてニューフアツションが流行り、そこを出して歩くことにでもなると困ります。お臍のあたりとも考えたことが前にありましたが、驚いたことには、この二・三年、お臍を出すのが流行だそうです。こうなるとどこえ植えたらよいのか、まことに困りますが、目立たぬところに植える心遣いはしたいものであります。

第二にB・C・Gのお話です。この英語の意味を知らない方もありますので説明しますと、實は英語でなくてフランス語であります。そのBはBacille（ばい菌）Cは Calmetteという人の頭字、Gは Guérin という人の頭字、即ちカルメット氏とゲラン氏というフランスの學者の發見したばい菌という意味です。

之は牛を侵す結核菌――牛型菌といゝますが、その結核菌から作つたものです。牛型菌は人間にも害があります。歐米では牛の結核が多いために、その牛乳をのむ人が腸結核になることがしばしばあります。その牛型菌を前記の二人のフランス人が培養している中に、人間には害がなくしかも免疫を作る菌が出來ていることを偶然發見したのです。培養というのは、結核菌の好きなごち走を與えて、丸いガラスの器の中で養うこと、結核菌の好きなごち走とは例えばグリセリンとか、卵とか、味の素等なかなかぜいたくです。ごち走はぢきになくなりますから、次々と新らしいのに植えてゆく、そして二百何十代か植えたときに、B・C・Gが出來たことがわかつたのです。

即ちB・C・Gとは生きた結核菌です。然し全く無毒・無害であります。注射しても熱一つ出ません。自覺症狀も殆どありません。たゞ惜しむらくは種痘と同じ樣にあとが殘ること、その跡も三月も半年もぐぢや〳〵してから出來て、その間、感じが惡いのが缺點であります。然しその爲に特にどうの、ということはありません。長くつゞく潰瘍だけが問題であります。從つて種痘と同じ樣に、植えの場處さえ注意してやれば、何ら差支えないのであります。種痘は赤ちやんのとき注意しても、もにしたのに、幼稚園で勝手に腕にB・C・Gをして、跡がのこつた、と文句をいわれるのも不快ですし、又實際將來美人になるべき女の子には可哀そうです。場處を選びましよう。潰瘍が出來たらマーキロをぬり、その上に軟膏をつけガーゼをバンソー膏であてておいて下さい。然し、これだけで結核が相當豫防出來れば、こんなに有難いことはな

いでしよう。

但しこの効力は一ヶ年であります。それも個人的に相當差が認められます。二年間も殘つている子供もありますが最初一回では免疫の出來ない子供もあります。それは注射してから二ヶ月をすぎれば、免疫の出來たものはツルベクリン反應が陽性になるのでわかります。その頃になつてツルベクリンが陽性にならない者は、もう一度しなければなりません。そして二ヶ月して又ツベルクリン反應をする。陰性ならば又B・C・Gをする、といつた具合に、ツベルクリン反應が陽性になるまで、之を行います。何回しても差支えありません。回を重ねるにつれて強い免疫が出來る樣になります。然し平均してみると、約一年で免疫が弱くなる子供が多いのです。一年に一回するわけであります。

B・C・Gがどうしてそんなに効くのか、ということでありますが、之は既に十年も前に證明されています。大學病院で初めて看護婦になつたもの或いは醫者を二つのグループに分け、一つにはB・C・Gを植え、他には植えないでみます。すると、B・C・G群の方は、病人の出る率が三分の一或いは五分の一しかない、その上、重症になるものがない、ということがわかつたのです。そこでこれを小・中學生に植えてみました。その結果は實に驚くべきこととなつて表れました戰後はどの國にも結核がもう烈な勢で蔓延するものなのですし、我が國もその例に洩れないと豫想されていましたのに、昭和廿二年の統計によると、十才から二十才の間の結核による死亡率が、昭和十一年頃の半分になつたのです。卅才以上の者の死亡が約一倍半近くになつているのに、B・C・Gを注射された年令のものだけが、この樣に減少したのです。本當にうれしいことです。結核の業績としては輝かしいものと云われるわけです。

私共は生れてすぐの赤ちやんから植えています。身近に結核のある人は、赤ちやんのときから注射して下さいと申込んで來ます。だんだんお母さんの方も、しつかりして來ています一と月一回の注射日には滿員の盛況です。こわがつたり、けちをつけたり、勿體ぶつているお母さんに、是非目ざめる樣幼稚園・保育所の先生方に、努力していたゞきたいものと願つて居ります。

次回は、百日咳・ジフテリー・はしかについてお話しいたします。

學生募集

◇保育科　三十名
◇入學資格　高等學校卒業若くは同等以上
◇修學年限　二ヶ年
（舊中野高等保育）

寶仙學園短期大學（申請中）

◇願書締切　三月廿四日（入學案内十圓及郵券要）
◇考査日　三月廿五日
◇考査科目　國語・社會・理科・音樂・體育・圖畫

東京都中野區宮前町四六番地
電話　中野（38）三五一一番

記錄

第六回幼稚園小學校研究集會

——中國地區——

六月千葉縣市川市の眞間小學校での第一回から（既報）九月北海道小樽市量德小學校の第二回（既報）、次で九月二十五日から三十日まで秋田市中通小學校での第三回、十月九日から十四日までの和歌山市吹上小學校での第四回、十月十六日から二十一日までの福井市順化小學校での第五回に引きつゞき、第六回のそれは十月三十日から十一月四日まで、鳥取市市立邊喬小學校で盛會裡に行われた。期間中には十一月三日の文化の日がはさまつたが、この日も休まずに、眞の新しい文化を建設せんとの意氣に燃え、殊にこの日で最後の班別研究は、各班とも最高潮に達して、成果をあげ、有意義な一日を過したのである。

すでに回を重ね、數多くの體驗が生かされて、全國的にいつて油ののつた好調の研究集會であつた。

CIEアンブロース女史の熱心な指導の下に、すべては順調に進み、雨天の多い鳥取が、颱風の餘波をうけて一日ぐずついたが、他は快晴に惠まれ、鳥取市にとつて珍しい天氣つゞきで好都合であつた。

幼稚園班は、指導者三名、司會者（會員中より）一名、會員三十八名、記錄係三名（內會員一）會員係一名の人容で、會員は山口縣より五名、廣島縣より五名、岡山縣より四名、島根縣より四名、地元の鳥取縣より二十名という內譯で、職種別は——小學校兼園長一男・園長四女・幼稚園教諭一七女・幼稚園助教諭一女・小學校教諭一二女・指導主事二男・主事一女——になつていた。研究集會の實演授業の研究會、最も重要な班別研究において、各縣の人々が夫々グループに分れ、それ〳〵異つた職種の人々が膝を交えディスカッションに、共同研究にと熱心に研究をすゝめ得た事は、古い衣をぬぎすてゝ新しいものへの實行に一歩乘だす爲に又とないよい機會であつた。

指導者（文部省初等教育課　事務官）中島瑞子、（鳥取縣教育委員會　指導主事）横山喜美惠、（鳥取西高附屬久松幼稚園　教諭）村江茂枝。

司會者（廣島縣加茂郡竹原小学校　校長）田村成一。

記錄係（鳥取市修立小学校　教諭）山本しめ子、（同）福本小菊、（同）山本美惠子。

會員係（鳥取市日進小學校　教諭）豊田幸子。

第一日

1、ガイダンスの問題について

2、幼稚園のカリキュラムについて

更にこれの副主題を討議し次の樣に決定した。

1、（イ）幼兒の理解と指導　（ロ）評價と發達の記錄　（ハ）教師の態度と人格

2、（イ）カリキュラムの構成の手續きについて　（ロ）單元展開について

この副題に基き、小班をつくり責任者を選び、明日からの班別研

究への準備を滯りなくすませた。研究の方法として、討議に終始するのでは、皆のもつている智識の一定の限界に至ると、それ以上研究を深めることが出來ないということが、回を重ねるにつれわかつた。そこで問題選定、方向ずけが討議で決定したら、グループで檢討しあい大いに圖書館を利用し、指導者の示唆や、學識經驗者の意見を徵したり、また見學などをなすという樣に發展した。

なお問題選定については盛んなディスカッションが行われ、「保育所と幼稚園の問題」「小學校一年入學初期の指導について」「家庭環境の問題」の研究の重要がとかれ、これらも棄てがたいので有志が個人研究をするということにきまつた。第二日は副主題でわかれたグループが、それ〴〵の問題に對してディスカッションを行つて研究の方向づけをして參考書をしらべ各縣より持ちよりの參考資料によつて研究をすゝめていつた。第三日目は各グループで觀察の觀點をもつて鳥取縣立鳥取西高等學校附屬久松幼稚園を參觀し、懇談會では保育所と幼稚園の問題が活潑に論議された。第四日目は小班毎に中間發表をして、相互の研究に關連をもたせて更に研究を深めていつた。第五日目は、大体、四日間の成果をまとめて、結論へと運ばれた。この日は幼兒教育に對してその振興に大きな援助を與えておられるアンブローズ女史が御忙しい中を時間をさいて、アメリカの幼稚園教育についてお話し下され、有意義な時を過した。その研究の成果は紙面の都合上追つて發表する。

山靜保育研究會

靈峯富士を狹んで山梨・靜岡兩縣の保育關係者は日頃密接な提携をしてきているが、その一として第二回研究會を去る十一月二十五六日の兩日伊豆溫泉郷長岡に於て開催した。參加者約二百六十名。

○開會式　司會者　靜岡横内幼稚園長　山田綱達

一、開式の辭　靜保連副會長　草分實

二、挨拶　吉原嘴保育園長　鈴木信政

三、祝辭　靜保連會長　淡路貞熙

全保連副委員長　小林徹

甲府市厚生課長　山本松市

山梨縣同胞援護會長　松永一雄

靜岡縣教委指導課長　池田政弘

四、祝電　同　兒童課長　小川正通

同　援護會長代　鶴見瑞弘

五、挨拶　全保連委員長　後藤鈴枝

山保連會長　林輝彦

小笠原隣保館長

六、保育歌　靜大附屬幼稚園

七、閉會の辭　靜保連東部支部長　林成子

沼津ルンビニ幼稚園長

○研究協議會　司會者　靜岡櫻花幼稚園長

一、開會のことば　おとぎ座主幹　岡部令司

二、人形劇の實地指導　文部事務官　玉越三朗

三、研究協議

(イ)　幼兒教育の最近の動向について

(ロ)　保育カリキュラムについて

（八）保育の實際指導及指導要錄について
（二）其他

時間のたつのも忘れて熱心に協議をつゞけ、いつしか秋の陽は山の彼方にすつかり沈む。御臨場いたゞける豫定だつた文部省IFEL幼稚園指導講師ルイス博士と御茶の水女子大學周郷教授御二方の御缺席を參加者一同非常に殘念がる。時に六時半。一先ず協議會を閉じて夜の懇親會とレクリエーションに移る。レクリエーションには天野信宏氏の舞踊と實地指導・靜岡のちやつきり節・山梨のスクエアダンス更に靜岡の最長老、清美幼の吉田園長がお得意の春高樓の踊りに達者な所を見せるなど歌と踊りの賑やかな催しが繰りひろげられ歡樂の夜は更けて行つた。

翌朝九時、明け方からばらつき出した秋雨を衝いて貸切バスに分乘、溫泉郷を後に三津海岸水族館に向う。この頃から太陽もにこやかな顏を見せ始め、遙か駿河灣を距てて富士の麗姿も秋空にくつきりと浮ぶ。水族館の見學を終え、お噺ぎの龍宮丸に乘船して西浦へ。鈴なりの黃金の玉、晝食を攝りつつその味覺と色覺に一同快哉を叫ぶ。十二時半、御土產のみかん籠を手に手に名殘りを惜みつゝ再び乘船、約一時間の船路を伊豆の山々に見送られつゝ沼津へ、驛頭に於て來年の地區大會に再會するを約し、數々の樂しい想出を殘して山靜大會を終幕した。この大會のために後援して下さつた靜岡縣同胞援護會・「あそび」・「キンダーブツク」・「ひかりのくに」の方々に衷心より感謝の意を表する。特に援護會の方々には總動員で我々參加者のために二日間到れり盡せりの献身的サービスをして下さつた事は到底筆舌には盡せない。この紙上を籍り滿腔の感謝を捧げて欄筆する。（一九五〇、一二八記、山靜保育研究會寄）

教育指導者講習會（IFEL）第一次幼稚園教育終了

既報のIFEL講習は九月十八日より十二週間の過程を了えて、十二月八日に東京學藝大學竹早分校講堂において芽出度き終了の式が擧げられた。

先に述べた樣に、全國公私大學長及び短期大學（部）長・都道府縣教育委員會。都道府縣知事等から推薦された人々を、更に文部省で詮衡委員關係係官で詮衡を行い、選ばれた二十五名の內、出願ののちにいろ〳〵の支障が出來た人もあつて、結局講習を受けられた方々は十九名であつた。日本側專任講師は、お茶の水大學教授周郷博氏で終始中心となつて講義、研究、グループ指導に力を注がれた。米人講師としてはアメリカ合衆國文部省初等教育課顧問——ガートリール・ルイス博士が來朝され、その高き人格、幼兒教育に關する識見、該博なる知識、それは觀念的な幼兒教育學ではない。全く幼兒の側にたち幼兒一人一人に即してつまれた御研鑽、御經驗による殊玉のようなもの。講習に對する責任と努力、つねに日本人側講師をたてられて謙虛な態度を示される、自然なその

姿に、幼稚園教育班は全く幸なるかな、よき講師を得、よき感化を得ることが出來た。又、ルイス博士のよき伴侶として下條英子女史が終始通譯の勞をとられた。十二週にわたる期間中、主として取り上げられた課題は、日本の子供の成長と發達の研究で、一つの方法は觀察をつみかさねていつて分析して問題を考へるゆき方で、ルイス博士は、先づすべての講習生に觀察の必要をとかれ、すでに永年保育に携わつておられる方にも、また新しい目で子供をみる、そして今までの經驗の上に更に大きな發見がつみ重なり、おどろきと喜びをもつて研究は發剌とした雰圍氣の中で續けられた。この觀察が着々と進んでいく一方に、第二の方法は日本及び諸外國の兒童の成長及び發達に關する研究をまとめ發達表をつくりあげられた。短期間乍ら洵に手堅い立派な研究の成果があげられ編集して大部分の研究報告書がものされた。さすがに、幼兒教育界の優秀なメンバーの集りであるだけに、その研究、そして今後の幼兒教育の爲の活躍は、きして俟つべきあるものがある。

以上の研究の爲にはお茶の水大學の牛島義友教授・戸倉ハル教授平井信義助教授・家政大學の山下俊郎教授をはじめ多數の講師の絶大な御援助をいただき、また會場校の御茶の水大學關係官、殊に附屬幼稚園主事及川ふみ教授の陰に陽につくされた御配慮には感謝の外はない。この間に各幼稚園や研究所その他時間の許される範囲内で見學を行い、そのあとのディスカッションは研究の上に大きな効果をもたらしたが、心よく見學を引受けられ、援助を與へられた、夫々の御好意に對しても感謝の一字につきる。また全國から派遣された御國元でもどれ程多大の犧牲がはらわれたことであろうか。すべてはよりよき國家建設の爲、世界平和をめざしてつらなる誠心によつて、この大事業も大禍なく推進されたのであつて、一月よりの第二次へ、立派な成果をもつてバトンがわたされた。第二次においては、第一次の方々の研究につゞいて、研究問題は主として、カリキュラム、管理の面に集中されることと思われるが、極寒中研鑽にいそしまれる方々の御健康を祈り、折角御努力あられんことを望む次第である。

第一回講習生

(北海道) 札幌幼稚園　田村澄、(青森)縣教育委員會　富所忠雄
(栃木)縣教育委員會指導課　今泉静江、(埼玉)埼玉大學埼玉師範學校附屬幼稚園　友松秀子、(東京)都教育委員會指導部　山村きよ
(福井)福井大學福井師範學校附屬小學校神明幼稚園　松村伊佐武
(山梨)甲府富士川幼稚園　古屋彰、(静岡)縣教育委員會指導部
小河洋、(愛知)愛知學藝大學附屬幼稚園　山口たつ、(三重)縣教育委員會事務局　稲住清左ェ門、(京都)市立乾隆幼稚園　中西ヒサノ
(大阪)市教育委員會事務局　清水桔梗、(兵庫)西宮市聖和女子短期大學　上野鑒、(奈良)奈良女子大學附屬幼稚園　大橋和子、(島根)平田小學校平田幼稚園　梶谷岩雄、(廣島)縣教育委員會學事課　内藤時光、(德島)德島師範學校附屬幼稚園　岩佐崇子、(熊本)熊本市立五福幼稚園　高森豊、(宮崎)宮崎大學附屬小學校　飯田英雄。

(文部事務官、中島瑞子記)

東京都公立幼稚園長會發足

東京都における幼稚園教育の普及刷新向上を圖り、幼稚園運營の十全を期すると共に、幼稚園相互の連絡を密にし、互助共勵の實を上げる事を目的として（規約第三條）東京都下公立幼稚園長を以て組織する（同第二條）標題の會が去十一月十三日（昭和二五年）新たに發足した。向後同會の事業とするところは規約第四條によれば、

一、幼稚園教育の普及刷新向上についての調査研究並にこれの具現

二、幼稚園運營上緊要な問題の研究協議並にこれの處理

三、教育委員會並に關係諸團体との連絡交渉

四、會員の互助厚生

五、その他この會の目的を達成するのに必要な事業

なお、役員は左の如し

會長・小林操（滝南山）　副會長・金田義種（千代田富士見）板橋いよ（文京第一）　幹事・牧野彪一（千代田芳林）　山極武利（中央常盤）伊藤利三郎（中央鐵砲洲）　中野藤太（港所櫻）　上南哲太郎（港仲之町）矢澤基賢（新宿）　能勢祐夫（新宿牛込仲之）　鎌田しん（台東竹町）松石治（台東清島）　佐々木長治（荒川日暮里）

第一回全國國公立幼稚園長協議會——補遺

前號既報標題の件に關し、記事中若干の誤りもあり、これが訂正をかねて、なお若干事項を補遺として左に加える。

選出役員は左の如し。

會長　岡田しげの氏（大阪）
副會長　小林操氏（東京）
同　河原定雄氏（德島）

（前號において副會長を柳澤靜子氏としたのはあやまり、謹んです）

協議内容は左の如し

第一議案

市町村立幼稚園の教員給の全額を都道府縣支辨にせられたい件

（提案説明者）明石市立播陽幼稚園長　内匠　ちえ

日本の新しい教育制度に於ては、幼稚園を正式に學校教育體系の中に編入し、更に教職員免許法に於ては、幼稚園教諭の資格を小中學教諭と同等におかれることになりました。これは幼兒教育が如何に重要であるかということを、立證するものでありまして、近く義務制が布かれようとする氣運さえうかゞわれるのであります。

然るに現狀に於ては、公立幼稚園教諭の待遇は、小中學教諭のそれに比して遜色があり、且つ地方的地域的に不同を生じています。特に幼稚園教諭の任免權は都道府縣に在りながら、其の給料のみ市區町村支辨となつている地域に於ては、幼稚園教諭の給料は實に不案定、不均衡であります。

たまゝ第二次アメリカ教育使節團報告書に於いて「幼稚園は小學校の一部として設置すべきである」と明示されていますし、CIE教育部初等教育官エドワード・アンブローズ女史は「幼稚園の教

員給については勿論小學校と同樣に取扱うべきである」と述べられています。

御當局に於かれましても右樣の實情よろしく御諒察いただきまして、速かに俸給の金額を都道府縣支辨として、教職員の身分保證と生活安定とによつて教育効果の萬全が期せられますよう格別の御配意を賜りたく、茲に全國國公立幼稚園長會の議決に基き陳情する次第であります。

第二議案

幼兒教育機關の設立を義務制にせられたい件

（提案說明者）舞鶴幼稚園長　堀江　道哉

我が國戰後の教育改革は眼ざましく、六三制の確立及び實施により、小學より大學に至るまで教育復興の曙光がきざしつゝあります。しかるにこゝに取殘されているものは幼稚教育機關であると申さねばなりますまい。個人の心身の發達を考えるとき、幼少の時期が極めて重要視されることは、幾多の研究で明かに示しているところであります。實に學校教育の基盤となるものは、幼稚園教育であることを思うとき、一日も等閑に附すべきことではないと存じます。

しかるに現在幼稚園の數は、國公立私立を合せて、小學校數に比べると僅かに十二分の一にすぎず、幼兒教育施設は極めて貧弱なるため、志願者は定員をはるかに超えて、到底その要求に應じられないのみか、中には受驗地獄をさえ描き出しているところもあり、教育上、社會政策上輕視出來ない問題といわなければなりません。

就ては御當局の御明斷により、速かに一小學校下に一園以上の幼兒教育機關を設立することを義務制とせられ、以て教育の機會均等化が一日も早く實現するよう、全國國立幼稚園長會の議決に基き請願する次第であります。

第三議案

教員養成の國立大學に幼稚園教諭の養成コースを設けられたい件。

（提案說明者）三重大學附屬幼稚園主事　鈴木　三郎

近時幼兒教育の重要性が漸く世に認識せられ幼稚園の數も漸次增加の傾向にありますことは誠に喜ばしいことであります。幼稚園教育の進展は優秀な教員に俟つところ極めて大であることは今更申し上げるまでもないことゝ存じます。

然るに今日の幼稚園教諭の養成機關は極めて貧弱でありまして世の需要に應ずることは到底不可能な實情にあります。このまゝ推移するならば愈々有資格者の不足に惱み幼稚園の危機を招來することは必至であります。就いては御當局におかれましても新しい教員養成の機制が都道府縣單位とされている原則に鑑み、國立教員養成大學に幼稚園教諭の養成コース（全課科程）を速かに設置せられますようこゝに全國國公立幼稚園長會の議決に基き請願します。

第四議案

國立幼稚園（師範學校附屬幼稚園）の整備充實をはかることの件

（提案說明者）大阪學藝大學附屬幼稚園主事　阿部　安三

幼稚園教員の需要の充足と幼稚園の設置の普及が急務である我國の現狀におきましては、幼稚園教育の振興は國立幼稚園の整備充實に負うところが甚だ大であります。又第二次アメリカ教育使節團の報告書に於ては「幼稚園は附屬小學校と結びつけて維持し子供の觀察と幼稚園教師養成のための學生の參與および學生實習のために使用すべきである」と明示されて附屬幼稚園の重要さが强調されています。（一〇頁へつゞく）

會から

○いよ〳〵お寒くなりましたが、いよいよお元氣のことゝ思います。よき保育は先生の健康から、元氣からといえましよう。子どもは風の子、寒さにも平氣です。先生方は。

○巻頭の『第二次アメリカ教育使節團の提言』は我國就學前教育の現狀と將來のために極めて要を得た勸告であり、われらのくわしく研究を要する書です。これを實現することにつとめなくてはなりません。

○『我國幼稚園の現在』について、保育關係者が充分くわしい知識をもつていられないのが、案外の事實ではありますまいか。しかも決して誇るべき現狀とはいえないのです。この論文によつて、お互によく考えましよう。

○『よき幼稚園』は前號につゞいていよ〳〵實際に觸れた問題として、考えさせられる點が多いのです。眞によき幼稚園を實現したいものです。

○『幼兒社會性發達の記錄』は、この重要な問題についての、注意ぶかい心理研究が、實際保育の間に行われたことについて特筆すべきです。

○おはなし『ぼうけん』は、新人の作として幼稚園ばなしの、一つの新らしいゆき方を示しているものといえましよう。

○世界の情勢は、いよ〳〵國際平和の實現について、深き思いに入らせます。世界の平和が破れたとき、われらの幼兒らが如何に不幸の生活におかれるかは、その記憶も亦だまざ〳〵しいことです。心から平和を祈らずにいられません。

『幼兒の教育』編集

編集主任　倉橋惣三

協力委員　牛島義友　及川ふみ　齋藤文雄　多田鐵雄　波多野完治　山下俊郎

（五十音順）

編集委員　西山浪太郎

日本幼稚園協會

幼兒の教育　第五卷　第三號　定價　金參〇圓

昭和二十六年　二月十五日印刷
昭和二十六年　二　月二十日發行

東京都中野區千光前町一〇番地
編集兼發行者　倉橋惣三

東京都文京區柳町二二番地
印刷者　杉山龜吉

東京都文京區柳町二二番地
印刷所　第一印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五
お茶の水女子大學附屬幼稚園内
發行所　日本幼稚園協會

東京都千代田區神田神保町二ノ四
發賣所　株式會社　フレーベル館
電話九段(33)三八七一・三九二一・三〇三〇
振替　東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他は凡て發賣所フレーベル館宛に願います

保育用品

自由画帳 定價二〇圓
送料6圓、40册まで55圓

おさいく帳 定價二〇圓
送料6圓、50册まで55圓

大判ぬりえ 定價三〇圓
送料6圓、40册まで55圓

ぬりえ(初級) 定價三〇圓
送料6圓、50册まで55圓

ぬりえ(上級) 定價三〇圓
送料6圓、50册まで55圓

日本幼稚園協會編
えとぬりえ 定價35圓
送料6圓、40册まで55圓

御道具箱 定價50圓
送料 5箱まで35圓

特製 **折紙** 寸色枚把 4各100 1 定價二五圓
送料十把まで35圓

特製 **折紙** 寸色枚把 5各100 1 定價三五圓
送料十把まで35圓

フレーベル館保育用品株式會社

お茶の水女子大 戸倉ハル・東京高師 小林つや 江共著

保育資料 うたとあそび 四六倍判一八四頁 定價 三二〇圓 書留送料 六五圓

著者多年の經驗と蘊蓄を傾倒し、幼稚園及小學校低學年用の教材の粹入十曲をあつめ、これを春夏秋冬の四に分類配當し、夫々の曲についての解説、とこれに獨創的なふりつけを詳説したもので絶好の保育資料として各地の講習會等に於て讃辭を頂いています。

表紙七色刷 扉等三色刷 美麗製本 最寄の書店又は本社に御注文下さい。

東京教育大學教官 中島海著

遊戯としての リレーレース B6判二四二頁 定價二〇〇圓 送料三五圓

●多年の蘊蓄を傾倒してものした、遊戯に關する理論及び實際指導の權威書。運動會參考資料として好適。

東京教育大學教官 中島海著

鬼遊びとかけっこ B6判三三七頁 定價二五〇圓 送料三五圓

●遊戯研究及實地指導に不可缺の好著。あらゆる種類の鬼遊びとかけっこを網羅蒐集したもの、運動會用として好適。

東京教育大學體育部教官編

體育大辭典 A5判一〇〇四頁 一萬二千項目收錄 定價一三五〇圓

發行所 東京都文京區大塚仲町二 株式會社 不昧堂書店 振替 東京六八七三九番

觀察繪本

キンダーブック

KINDER-BOOK

キンダーブックのフレーベル，フレーベルのキンダーブック——この繪本は餘りにも有名です。發刊以來既に通卷250號を發行し，全國の各幼稚園保育所をはじめ，健全な家庭から，學齡前の幼兒に無條件に與へられる代表的な繪本として續々の好評を戴いてをります。先頃連合軍總司令部CIEより發表ありましたものゝ中にも，アメリカにおいても類縁のない獨自のものであるとの御言葉がありました。企畫，編集，用紙，着色，製本凡ゆる面に不斷の精進をつづけ，號は號を追つて益々良いものを世に送りたいと努力してをります。次代の日本を背負う愛兒のためのこよなき心の糧であります。

A4判・16頁・月1回發行・定價 40 圓・送料6圓

好評

實用保育遊戲 第一集

賀來琢磨著

B5判 七〇頁 上製美本 一八〇圓 〒 一二圓

△保育遊戲の研究と實地指導のために二十數年の經驗をもち、更にその生涯をそのために捧げる著者が、保育遊戲の指導課程に基いて研究された教材集、近く示される「音樂とリズム」についての指導方針を理解する上にもこよなき參考書である。

人形芝居脚本集

倉橋惣三 序
菊池フジノ 共著
徳久孝

B6判 一八〇頁 上製 一五〇圓 〒 一二圓

△人形芝居の保育價値については今更のべるまでもない。本書は先に出版され、嘖々の好評を博した藉版同書の增補改訂版である。正に人形芝居シナリオの定本というべきもの。

幼稚園お話集 上・下

倉橋惣三 閲
日本幼稚園協會編

A5判 二〇〇頁 美本上製 各二〇〇圓 〒 一二圓

△これまた「お話集」の定本といはれた舊判の增補改訂版である。ほとんど全部にわたつて改訂增補をこゝろみ光芒いやます好著となつた。

やさしいリズム遊びと行進曲

玉山英光作曲
賀來琢磨振付

B5判 上質紙使用 美本 九〇圓 〒六圓

△新しい保育內容充實の爲、幼兒才能音樂教育の立場から、一日の保育の中より描寫して、リズム遊びの音樂と行進曲にまとめた、幼稚園・保育所向けの良い參考書である。

發行所 東京都千代田區神田神保町二丁目四番地 株式會社 フレーベル館 振替口座 東京一九六四〇番